

資料

1. 計画段階の諸資料

- A. 学生のヒマラヤ野外実習プログラムに関するご意見伺い（2008年11月）
- B. 地質学会小集会の提案（2010年7月）
- C. ヒマラヤ野外実習プログラム推薦のお願い（個人対象）（2010年10月）
- D. ヒマラヤ野外実習プログラム推薦のお願い（学会・団体対象）（2010年10月）
- E. 指導教員登録のお願い（2010年12月）
- F. ネパール地質学会宛推薦依頼（2010年12月）
- G. ネパール地質学会推薦書（2010年12月）

2. 業者への見積もり依頼

- A. 日本の旅行社あて日本ーネパールフライト見積もり依頼（2010年8月）
- B. 日本の旅行者による見積もり（2例）（2010年9月）
- C. ネパールトレッキング会社対象ネパール国内ツアー見積もり交渉（5件）

3. 日本国内大学の地学関係教室対象アンケートなど

- A. 学生のヒマラヤ野外実習ツアーの単位振り替え検討のお願いとアンケート（日本全国の地学関係教室対象、2010年12月）
- B. 学生のヒマラヤ野外実習ツアー参加者予備募集開始のお知らせ、協力願いとアンケート（日本全国の地学関係教室対象、2011年3月）
- C. 野外実習ツアー本募集開始のお知らせとお願い（地学関係教室対象、2011年9月）
- D. アンケート及び協力依頼学科／教室一覧
- E. 単位振り替えについてのアンケート結果

4. 参加者募集と実施要項

- A. 第1回学生のヒマラヤ野外実習ツアー参加者募集ビラ（2011年5月）
- B. 第1回学生のヒマラヤ野外実習プログラム実施要綱（2011年3月）

5. 実習ツアー参加者への連絡（2011年10月～2012年5月の10件）

- 1) 個人情報送付依頼(20111006)； 2) ツアー実施可能情報ほか(1128)； 3) 参加者名簿と経費見通し(1205)； 4) 海外旅行障害保険加入のお願い(1230)； 5) 各地と関空間の交通について(20120110)； 6) 旅行全般-トレッキングの注意-VISA申請用紙など(0204)； 7) 集合時間・場所・飲み水などの注意(0229)； 8) 実習ツアー中の実施側の連絡先(0304)； 9) 帰国後連絡-レポート提出依頼(0324)； 10) アンケート依頼(0524)

資料 I 計画段階の諸資料

資料 I-A 学生のヒマラヤ野外実習プログラムに関するご意見伺い

敬愛する先輩・友人各位

皆様お元気にご活躍のことと存じます。

とつぜんですが、この度ヒマラヤを対象にした学生野外実習ツアーを実現したいと思うに至りました。アイデアの大枠を別紙にまとめましたが、これについて皆様のお考えを頂きたく、本メールをお送りさせて頂きました。ご共感いただけるところがありますようでしたらば、ぜひご一筆下さいますよう、お願いします。また、本計画の推進戦略についてもご示唆頂ければ真にありがたく、よろしく申し上げます。

2008年11月10日

吉田勝

ゴンドワナ地質環境研究所長

(元大阪市立大学理学部教授・トリブバン大学名誉教授)

(日本のヒマラヤ研究者 12 人に送付、2008年11月10日付)

.....
別紙 1. 「ネパールヒマラヤ、カリガンダキ河に沿う地質と自然災害」－ 学生野外実習巡検
計画のご案内とアンケートのお願い

別紙 2. 「ネパールヒマラヤ、カリガンダキ河に沿う地学と自然災害」－ 学生野外実習プロ
グラム実現戦略素案

「ネパールヒマラヤ、カリガンダキ河に沿う地質と自然災害」

学生野外実習巡検計画のご案内とアンケートのお願い

ヒマラヤの地学／自然災害にご関心のみなさま

地学関連分野における野外調査の重要性は言うまでもありませんが、残念ながら現在の日本の大学では必ずしも十分にカバーできているとはいえない状況です。そのため、大学の専門の学科を卒業しても、野外地学に自信のない学生が多く社会に送り出されています。しかし一方、開発事業や災害対策の現場、あるいは研究教育現場においては、野外地学経験のある人材が強く求められています。私達はこのような状況に少しでもお役に立ちたいと考えて本事業を立ち上げました。とりわけ、若い学生時代にこの魅力的なヒマラヤの野外地質に触れることは、野外地学のみならず、国際的な学問と学界への理解と志向への大きな刺激になります。

私はこれまで現地研究者らと数度ネパールヒマラヤで地学巡検案内をし、あるいは地学と自然災害ガイドブックを編集・発行してまいりました。そのなかで、トリブバン大学が中心となって、日本の学生を対象として野外実習巡検を毎年ネパールヒマラヤで実施してはどうかと考えるに至りました。

ネパールのほぼ中央部、ポカラの町の北にアンナプルナとダウラギリという2つの8000米峰があります。この両峯の間を穿つ世界一深いカリガンダキ河に沿って歩くと、美しい山と溪谷、見事な地質、地形、気候、植物相がドラマティックに変化します。カリガンダキ河は、ヒマラヤの自然環境、地質構造、自然災害を学ぶ世界最高の野外実習コースです。本実習では、この素晴らしいコースを10日間かけて観察します。野外巡検には、1グループを20人以内とし、1グループあたり、ヒマラヤ地学を専門とする日本の大学教員とトリブバン大学の教員各1-2名が随行し、実習指導を行ないます。事業計画の概要として、以下のようなものを考えました。指導担当の日本の大学教員としては、私自身も、少なくとも最初の数年間は同行したいと思っておりますが、他にもお元気でヒマラヤを歩いている方々は沢山おられ、一旦この計画が動き出すと簡単には破綻しないだろうと期待されます。

実施時期と期間： 毎年3月上旬、出国から帰国まで14日間で、内訳は10日間がカリガンダキ河の野外巡検、1日はトリブバン大学地質学科学生とグループ討論と交流、予備1日はカトマンズ市内見学（地震災害対策と環境問題）、往復2日間

参加形態： 個々の学生、教員の自由参加、単一あるいは複数大学・学科のグループいずれも可能です。

参加費用： 実施主体等の利益はゼロとし、参加者1人25万円以内で、国際フライト、VISA申請、海外旅行保険など海外旅行諸経費および手続き料、外国宿泊費、食費、野

外巡検経費一切（宿舎費、食費、野外での必要な間飲食経費、キルティングコートとスリーピングバッグ借料、案内者経費、ポーター、シェルパ、巡検案内書ほか）等を含む。

参加費用に含まれないもの：フライトのオイルサーチャージ、嗜好品、嗜好飲料、土産代、持病薬。なお、現地での疾病や怪我治療経費は海外旅行保険でカバーされますが、保険金が出るまでの間は本人、ご家族あるいは事業主体が立て替えることになります。

実施主体：ネパール国立トリブバン大学トリチャンドラキャンパス地質学教室・ゴンドワナ地質環境研究所共催

協力：(有) ジオプランニング社

後援：日本地質学会ヒマラヤ研究部会、日本地質調査業協会、ゴンドワナ研究会、ネパールヒマラヤ地すべり学会、・・・・・・

呼びかけ対象者：地学、土木工学、自然環境の専攻、あるいは専攻を目指す学生や指導教員

参加形態：A 個人々の学生、教員の自由参加

B 単一あるいは複数大学の正規カリキュラムとしてグループあるいは個人参加

C 単一あるいは複数大学学科学生の卒業巡検などとしてグループ参加

実施計画： 毎年 2 月か 3 月に 1 あるいは 2 ツアーを実施する。各ツアーにはヒマラヤの野外地学研究専門の日本人大学教員（1 人）及び現地の大学教員各 1 名が随行、指導する。

.....

推薦者、及び／あるいは共同呼び掛け人（素案として 20 人の候補者を提案）

推薦文を頂く方（4 人の候補者を提案）

「ネパールヒマラヤ、カリガンダキ河に沿う地学と自然災害」

学生野外実習プログラム実現戦略素案

0. 日本ヒマラヤ研究会の再建（日本地質学会内）

1. ヒマラヤ研究者らの一部*と予備打合せ／アイデア伺い

計画全般の推進戦略について 10 人の知人・先輩に

2. 地質学会々員等を対象に

アンケート

計画全般についての意見伺い

（ヒマラヤ研究者および野外地質・災害地質関係者）

3. ヒマラヤ研究者（前記）対象

賛同と参加のお願い、（後で広告パンフへの氏名掲載の承諾）

4 A. 各教室対象に宣伝とお願い

「ヒマラヤ野外実習巡検計画開始のお知らせと、同巡検の野外実習単位採用のお願い（日本の関係教室の一部で、地学、災害、環境関係）」

4 B. 各教室教員個人対象：

檄文と協力お願い：ヒマラヤで地学学生野外実習を！

ヒマラヤ研究者らを対象

.....

差当たりの野外指導教員候補者として日本人 8 人、およびネパール人 3 人、インド人 3 人を仮提案

資料 I-B 地質学会小集会の提案

2010年7月28日

ヒマラヤの地学研究にご関係のみなさま

私達は今年9月の日本地質学会富山大会で夜間小集会「学生のヒマラヤ野外実習を考える会」を行なうことにいたしました。この小集会の趣旨と、学生実習プログラムたたき台、及び実現戦略素案をここに添付お送りさせていただきます。ぜひご一瞥下さり、よろしければこの小集会にご参加下さいますよう、お願いします。

なお、お知り合いにご関心の方がおられるようでしたらば、このメールをご転送頂ければ幸いです。

2010年7月28日

小集会世話人会

吉田勝

在田一則(残念ですが当日は参加できません)

酒井哲也

日本地質学会富山大会 小集会「学生のヒマラヤ野外実習を考える会」の提案

地学関連分野における野外調査の重要性は言うまでもありませんが、残念ながら現在の日本の大学では必ずしも十分にカバーできているとはいえない状況です。そのため、大学の専門の学科を卒業しても、野外地学に自信のない学生が多く社会に送り出されています。しかし一方、国内外の開発事業や災害対策の現場、あるいは研究教育現場においては、野外地学経験のある人材が強く求められています。若い学生時代にこの魅力的なヒマラヤの野外地質に触れることは、野外地学のみならず、国際的な学問・学界への理解を大きく増進し、地学勉学の大きな刺激になります。

提案者らは長年ネパールヒマラヤで地質野外調査を実施してきており、そのなかでネパール国立トリブバン大学トリチャンドラキャンパス地質学教室の教員らと共同調査を実施し、あるいは学生野外実習に携わる機会を持ってきました。これらの活動の中で、ネパールヒマラヤを日本の学生実習に提供したいという考えが同教室や提案者らの話題になってきました。同教室はネパールを代表する地質学、応用地質学教室であり、優れた学生指導と国際的研究の実績を持っています。同教室ではとくに野外地質学実習を重視し、毎年2回数週間の学生合宿実習を行い、全教員がこれに参加しています。一方同教室では、1970年台から日本の地学研究者をJICAの教員派遣等で受け入れており、日本との深い繋がりを持って来ました。例えば学位を持つ教員の半数以上は日本で取得していますし、全教員の半数以上が日本人研究者らとの共同研究実績を持っています。

以上のような趣旨と背景のもと、ご賛同の皆さまと学生ヒマラヤ野外実習の実現にむけて話し合いたいと思います。ご関心のみなさまのご参加を期待します。

吉田勝（ Gondwana 地質環境
研究所）

在田一則（北大総合博物館）

酒井哲也（島根大総合理工学部）

資料 I-C ヒマラヤ野外実習プログラム推薦のお願い（個人対象）

2008 年 10 月 10 日

敬愛する先輩・友人各位

拝啓 皆様にはお元気にご活躍のことと存じます。

さて、突然ですが、この度学生ヒマラヤ野外実習プロジェクトを立上げ、ヒマラヤでの学生野外実習プログラムを実施することになり、全国の大学関係教室に本実習参加学生への単位付与を検討するよう、お願いすることに致しました。つきましてはこのプログラムについて皆様のご推奨を頂きたく、ご検討下さるよう、お願いします。各教室への単位認定のお願いとプログラムの概要を同封お送りさせて頂きましたのでご参照下さい。

このようなお願いは、本来ならばお伺いしてご説明をさせて頂き、ご不審のところなどもお伺いさせて頂くべきではありますが、諸般の事情で郵便でのお願いとさせて頂きました。返信用のハガキを同封させて頂きましたので、恐縮ですがご推薦の可否、或いはご意見などお書き下さり、投函して下さいようお願いします。E-mail でのご返事やご意見、ご質問もお待ちしております。まことに恐縮ですが、各教室での来年度カリキュラムの検討時期に間に合うよう、ご返事は 11 月 30 日ころまでを目処にお願いできれば幸いです。

なお、ご推薦下さる皆様の名簿リストは「学生のヒマラヤ野外実習プログラム」に添付させて頂く所存です。

敬具

学生ヒマラヤ野外実習プロジェクト
世話人 吉田勝（代表）・在田一則・酒井哲也
Gondwana 地質環境研究所

www.geocities.jp/gondwanainst/

和歌山県橋本市柱本 1 4 7 - 2

.....
このお願いは下記の皆さまにお送りさせて頂きました（アルファベット順・肩書き敬称略）

上田豊様、秋山雅彦様、安藤久男様、安間荘様、千木良雅弘様、藤田崇様、藤原健蔵様、
伏見硯二様、波田重熙様、原郁夫様、長谷川修一様、長谷川美行様、廣井美邦様、石賀裕明
様、石原舜三様、岩崎正夫様、岩田修二様、加々美寛雄様、蟹沢聡史様、加納隆様、加藤誠
様、河原紀夫様、勝井義雄様、木村学様、木崎甲子郎様、小松正幸様、河野純一様、
熊井久男様、黒田吉益様、丸山茂徳様、増田俊明様、三島史郎様、宮下純夫様、中川康一様、
仲井豊様、成瀬廉二様、野村哲様、小野有五様、大場与志男様、大森昌衛様、大田
昌秀様、酒井治孝様、佐々恭二様、島津光夫様、白石和行様、相馬恒雄様、住吉幸彦様、諏
訪兼位様、鈴木堯士様、高木秀雄様、高須晃様、高安克己様、武田裕幸様、徳岡隆夫様、渡
辺邦夫様、渡辺興亜様、山田知充様、山岸宏光様、矢田部竜一様、吉田栄夫様、吉
倉紳一様。

資料 I-D ヒマラヤ野外実習プログラム推薦のお願い（学会・団体対象）

2010年10月15日

拝啓 貴会におかれましては益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、突然ですが、この度学生ヒマラヤ野外実習プロジェクトを立上げ、ヒマラヤでの学生
野外実習プログラムを実施することになり、全国の大学関係教室に本実習参加学生への単位
付与を検討するよう、お願いすることに致しました。つきましてはこのプログラムについて
貴会のご推薦を頂きたく、ご検討下さるよう、お願いします。各教室への単位認定のお願い
とプログラムの概要を同封させて頂きましたのでご参照下さい。

このようなお願いは、本来ならばお伺いしてご説明をさせて頂き、ご不審のところなどもお
伺いさせて頂くべきではありますが、経費節減のため、郵便でのお願いとさせて頂きました。
返信用のハガキを同封させて頂きましたので、恐縮ですがご推薦の可否、或いはご意見など
お書き下さり、投函して下さい。E-mail でのご返事やご意見、ご質問もお
待ちしております。

なお、ご推薦奨下さる個人、団体等の名簿リストは「学生のヒマラヤ野外実習ツアープロ
グラムの概要」に添付させて頂く所存です。

敬具

学生ヒマラヤ野外実習プロジェクト
世話人：吉田勝・在田一則・酒井哲弥
和歌山県橋本市柱本147-2
 Gondwana地質環境研究所気付
E-mail:gondwana@gaia.eonet.ne.jp
Tel/Fax: 0736-36-7789

このお願いは下記の23の関係団体等と個人(53人)の皆さまにお送りさせていただきました
(アルファベット順)

地学団体研究会、土木工学会、国際協力機構ネパール事務所、ネパール地質学会、ネパール地すべり学会、日本地球惑星科学連合、日本地質学会、日本地学研究会、日本地学教育学会、日本地形学連合、日本地理学会、日本地すべり学会、日本活断層学会、日本応用地質学会、日本雪氷学会、日本自然保護協会、日本自然災害学会、自然史学会連合、山地総合開発国際センター(ICI MOD)、青年海外協力隊ネパール会、東京地学協会、ユネスコネパール事務所、全国地質調査業協会

資料 I-E 指導教員登録のお願い

2010年12月8日

学生ヒマラヤ野外実習プログラム指導教員候補名簿への御参加のお願い

向寒の折、皆さまにはお元気にご活躍のことと存じます。

さて、先に推薦をお願いしておりました学生ヒマラヤ野外実習プログラムですが、お蔭様で多くの皆さまにご推薦を頂き、この12月には各大学の関係教室に単位認定のお願いをすることになりました。いろいろとご心配を頂き、まことにありがとうございました。なお、もしうえのお願いへのご返事をお忘れのようでしたら、恐れ入りますがお早めにメール等でOKあるいはNoのご返事をお送り下さいますよう、お願いします。

さて、学生ヒマラヤ野外実習プログラムについて関係教室に単位認定をお願いするには、どのような指導者が同行するのかを明確にする必要があると思われまます。そこで、「指導教員候補名簿」を計画書に添付することに致しました。貴方様にはぜひ、指導教員候補をお引き受け頂きたく、ご検討のうえ可否をお知らせ下さるよう、お願いします。

「指導教員候補」とは、ご都合のよいときに指導教員として参加できる方です。退職された

あとにご都合がよくなり、参加できるだろうと思われる方（退職後なら OK の場合は、その旨を名簿に記載します）、あるいは現役のときでも実施時期は 3 月上旬など場合によっては時間のとれる期間でもあり、参加できることもあると思われる方には是非名簿記載をお考え頂きたいのです。つまり、ご都合がよいと思われる時に、あらかじめプロジェクト事務局にお知らせ頂ければ、指導教員としてのご参加をお願いするというような具合です。専門については、かならずしもヒマラヤを研究されていないなくても、野外地質に強い方で学生指導をできる方であれば適任と考えております。

以上、よろしく申し上げます。

なお、勝手ですが、各教室の来年度のカリキュラム検討は 12 月には始まる場所も多いかと思われま。恐れ入りますが、ご返事をお早めに下さいますよう、よろしく申し上げます。御参考までに、先にお送りしたプログラムに推薦者名簿を加えたファイルを添付お送りさせて頂きました。

学生ヒマラヤ野外実習プロジェクト
世話人代表 吉田 勝

資料 I-F ネパール地質学会あて推薦依頼

10th December 2010

To: Geological Society of Nepal
Dear Sir,

The Japanese Students Himalayan Field Exercise Project (JSHEP) has started a program of field exercising tours in Nepal for Japanese students to be conducted every year, and the first tour is in preparation to be conducted in March 2012. In progressing the program, we hope to receive nominal support from academic societies and organizations of related fields of Japan and Nepal, so that the program will be able to try receiving necessary support from various organizations of the two countries.

With regard to this, we would like to request you to give us your nominal support, to allow us to describe your name in the list of recommending societies/organizations. We attach an outline of the program of March 2012 for your kind perusal.

Your positive response at your earliest conveniences will be highly appreciated.



Prof. Masaru Yoshida, D.Sc.

Chief convener, Japanese Student Himalayan Field Exercise Project for (JSHEP)
Conveners: Masaru Yoshida, Kazunori Arita and Tetsuya Sakai
C/o Gondwana Institute for Geology and Environment
URL: <http://www.geocities.jp/gondwanainst/>
147-2 Hashiramoto, Hashimoto 648-0091, Japan
Tel/Fax: 0081-736-36-7789
E-mail: gondwana@gaia.eonet.ne.jp

Attached Files

1. Outline of the Student Field Exercise Program
2. Itinerary of the student field exercise tour in March 2102

Attachment 1

Himalayan Field Exercise Program for Japanese Students

In central Western Nepal to the north of Pokhara, there are two 8000-meter peaks of Annapurna and Daulagiri. In walking along the world-deepest Kaligandaki valley flowing between the tow peaks, beautiful mountains and valleys, distinct geology, geomorphology, climate and vegetations change dramatically. The Kaligandaki valley is the world-best course of field exercise to learn Himalayan natural environment, geologic structures and natural hazards.

Regarding the geology that forms the foundation of nature, we can observe all geological zones and their boundary mega faults that constitute the Himalayan Orogen: they include from the south to the north, the Gangetic Plain (Terai), Himalayan Frontal Thrust, Sub Himalayan Zone, Great Boundary Thrust, Lesser Himalayan Zone, Main Central Thrust, Higher Himalayan Zone, Tibetan-Tethys Detachment, and Tethys Himalayan Zone. The tour covers the course from Muktinath to Lumbini by 7 days. One field team will accommodate 10 - 20 participants and is associated by 2 - 4 academic guides (senior and active university teachers) of Japan and Nepal to teach participants. The time of the tour is early March every year, and the first tour is scheduled to be conducted in March 2012. The outline of the program is given below.

Outline of the program.

Time, period, itinerary and course: The program will be conducted in March every year and the first geotour will be in 2012. Total duration is 12 days including 7 days of field excursion along the traverse Muktinath-Pokhara-Tansen-Lumbini, one day in Kathmandu having group discussion and interaction between participants and Nepali students, one spare day will be used for Kathmandu sight seeing with Nepali students mostly to observe environmental problems and earthquake measures of the city, and 3 days of travel Japan-Nepal.

Participants: Japanese students learning geosciences including geology, natural hazards and environment, and young engineers newly employed by companies with related fields.

Forms of participation: Participants of the following four categories from A to D will be accommodated in the geotour.

- A. Personal participation of under- and over-graduate students, their teachers and newcomers of companies of related field.
- B. Individuals or a group of students and young engineers as a part of official educational course of universities/companies.
- C. Official dispatch of students/new comer engineers of universities/companies
- D. Group participation of students/new comer engineers such as a graduation tour etc.

Education system in the geotour: Academic guides including 2 - 4 active or retired university teachers in total from Japan and Nepal whose specialty lie in the Himalayan field geology will associate with the geotour and give exercise to participants. Participants are requested to submit reports on both field excursion and group meeting(s). An excursion guidebook that carries introduction to the Himalayan geology and natural hazards, topographic maps with observation locations, explanations on observation points with necessary photos and/or figures will be prepared and distributed to participants. In case the tour is recognized as to form a part of the formal curriculum of the university/company to which participants belong, teachers will send the evaluation of reports of the participants to the university/company.

Number of participants for the geotour to be conducted: The geotour is conducted in case the number of participants attains 10 people. In case application of participation comes over 20, the earlier to be accepted principle will be adopted, i.e., those who registered earlier will be preferred. There is a possibility that more than one geotour will be conducted according to number of applicants for participation.

Necessary fee for the participation to the geotour: Participating fee for students will be less than 200,000 JPY (ca 2300USD), and other participants less than 300,000. Organizer is strictly prohibited to gain any economical interests from the tour, i.e., it should be zero, and any amount of exceeding income (such as financial support from organizations) related to the geotour should be refunded to participating students.

The participating fee includes: international flight, oil charge and tax for the flight, VISA application, all necessary expenditures related to overseas travel, group insurance for the overseas tour, domestic transportation, lodgings, meals and all necessary fees for the field excursion (lodgings, meals, necessary snacks and drinks in the field, employment of porters and guides, preparation for the geotour including formation of excursion guidebook, and participating fee for the academic guides.

Expenses that are not included in the participation fee: Snacks and drinks of personal favorite throughout the tour, gifts, medicines specific for individuals for daily use. Passports are to be obtained themselves by participants.

Organizers of the geotour: Gondwana Institute for Geology and Environment (Hashimoto,

Japan)* and the Department of Geology, Trichandra Campus, Tribhuvan University, Kathmandu, Nepal*.

Accounting of the geotour: Accounting of the geotour is in the responsibility of accompanying Japanese teacher(s). He/she has to report the accounting of the geotour within a month after the geotour to the organizer. The organizer has to receive inspection of the accounting of the program of the year including that of the geotour by the auditor of GIGE, and the account report is distributed to all participants.

Report of the geotour: A report of the geotour is made by academic guides who joined the geotour and submitted to organizers. The main organizer (GIGE) has to prepare a formal report of the program including the accounting report of the program, and has to distribute it to all participants and related organizations.

Collaborators of the program: A Japanese travel agency to provide international air tickets (under selection) and a Nepalese trekking agency to help organization of the geotour in Nepal (under consultation).

Supporters of the program: Academic societies, related organizations, groups, companies, and eminent individuals of academic, governmental and business worlds. Donations from companies of related fields of activity will be searched for to reduce participating fee of students.

*** Gondwana Institute for Geology and Environment (Hashimoto):** The main office of the Gondwana Institute for Geology and Environment (GIGE), which is an international NGO/NPO and is situated in Hashimoto, south of Osaka, SW Japan. The GIGE is a group of loosely connected world's geoscientists belonging to countries located in Gondwanaland crustal fragments. About 50 scientists are registered as the Fellow of GIGE. There are 10 GIGE chapters in the world covering 8 countries including Japan, Nepal, India, Sri Lanka, China, Kuwait, Tanzania, and D. R. Congo. Work of the main office is generally conducted by some to ten volunteer scientists of GIGE staff. Gross budget of GIGE main office in 2009 was about three million JPY, and major work of the main office in 2009 has included geological research of the Nepal Himalaya jointly with scientists of Nepal chapter, a geotour in NW Indian Himalaya in collaboration with Indian scientists, and editing of geotour guidebooks of the Himalaya with the Nepal chapter, etc. (Website: <http://www.geocities.jp/gondwanainst/>)

***Department of Geology, Trichandra Campus, Tribhuvan University:** This is the largest and most advanced geological education and research body in Nepal and includes 16 teachers and about 100 undergraduate students. Since the inauguration of the department in 1960s, staffs of the department have made effort in research and educating students in the Himalaya. The Department staffs have been conducting advanced research in the Himalaya on geology and natural hazards in collaboration with scientists worldwide including Japan. The Department has an intimate relationship with Japan since long, such as that over half of the staff with D.Sc degree received education and degree in Japan, and over a half of the staff has an experience of or even

now conducting collaborative research with Japanese researchers.
 (Website: <http://www.geology.edu.np>)

Attachment-2

Itinerary of the Student Himalayan Exercise tour in March 2012

	<i>Jomson flight plan</i>	<i>Jomson flight cancell-plan</i>
0	Depart Japan for Kathmandu	Depart Japan for Kathmandu
1st day	Arrive Kathmandu from Japan. Visit Geology museum, Trichandra campus, interaction with TU students. Stay in Kathmandu.	Arrive Kathmandu from Japan. Visit Geology museum, Trichandra campus, interaction with TU students. Stay in Kathmandu.
2	Kathmandu – Pokhara, by Greenline Bus. Stay in Pokhara.	Kathmandu – Pokhara, by Greenline Bus. Stay in Pokhara.
3	Pokhara – (air)–Jomson–(car)–Muktinath – (on foot)–Kagbeni (Stay)	Pokhara – (bus)–Tatopani (Stay)
4	Kagbeni –(on foot)– Jomson–(car)–Kokethati – (on foot)–Lete (stay)	Tatopani – (car) – Kagbeni (Stay)
5	Lete– (on foot)–Tatopani (Stay)	Kagbeni – (car) – Muktinath –(on foot)–Kagbeni – (onfoot)–Jomson (stay)
6	Tatopani – (bus) – Pokhara. Pokhara – (bus) – Tansen – (bus) – Bairawa (Stay).	Jomson –(car)–Tukche – (on foot) – Lete (stay) Lete–(onfoot)–Tatopani (Stay)
8	Bairawa – (bus) – Kathmandu	Tatopani –(bus)–Pokhara (Stay).
9	Kathmandu town observation guided by TU students.	Pokhara –(Greenline bus)–Kathmandu
10	Depart Kathmandu for Japan	Depart Kathmandu for Japan



नेपाल भौगर्भिक समाज
NEPAL GEOLOGICAL SOCIETY

14 December 2010

To:
Prof. Masaru Yoshida
Chief convener, JSHEP
C/o Gondwana Institute for Geology and Environment
147-2 Hashiramoto, Hashimoto 648-0091, Japan

Subject: Japanese Students Himalayan Field Excursion Project (JSHEP)

Dear Sir,

In reference to your letter dated 10th Dec 2010 regarding the support for the Field Excursion tours in Nepal for Japanese Students to be conducted every year, please be informed that the Nepal Geological Society is happy to extend every possible support for the successful organization of the above mentioned field excursion.

We believe that such excursion program is very useful to disseminate the knowledge on the Himalayan Geology to the students of geosciences. It could form the foundation for attracting the young researcher in the Nepalese Himalaya to conduct research in various aspects of geosciences in future.

Please feel free to communicate with us as and when necessary.

Sincerely,

Dinesh Pathak, Ph. D.
General Secretary

P.O. Box: 231, Kathmandu, Nepal
E-mail: ngs@wlink.com.np, Website: <http://www.ngs.org.np>

資料 II 旅行者への見積り依頼と交渉

資料 II-A 日本の旅行社への日本-ネパールフライト見積もり依頼

2010.8.25

..... 旅行社殿

私は来年 3 月上旬に学生実習ツアーを計画中です。

つきましては、バーゲンフライトの見積りを頂きたいのですが、お願いできますか？

このツアーでは利益ゼロ、主催者側への支払は準備実費、航空料金とトレッキング参加実費のみで謝金、日当は含まないという完全ボランティアツアーで行きたいと思っております。そこで、まずはタイ航空がいいと思っておりますので、タイ航空と、もうひとつは最も安価なフライトをお願いします。人数は 10 人から 20 人、時期は 3 月 1 日日本発 15 日帰国です。

学生のヒマラヤ野外実習プログラム

世話人会代表 吉田勝

2010 年 8 月 25 日

資料 II-B-1 日本の旅行社 A の回答

吉田 様

お問合せいただきまして、ありがとうございます。

カトマンズ行きの航空券の件ですが、タイ国際航空に確認をさせていただきましたので、ご案内させていただきます。現在まだ来年の 1 月までの料金しかでておりませんので、暫定でのご案内となることをご了承くださいませ。

タイ国際航空で航空券代金がお一人様 ¥101,800+諸税でのご案内となります（暫定料金）。

また週末に現地発また関空着の場合はその旨+¥3,000 となります。

ご日程やご人数などはお決まりになりましたらご連絡いただきましたらリクエストという形でもお預かりできますので、ご連絡くださいませ。よろしくお願い致します。

.....社 担当者氏名

資料 II-B-2 日本の旅行社 B の回答

吉田 勝様

前文省略・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

「日本の学生にヒマラヤで地学・自然災害・自然環境の野外実習を！」というプログラムも、参加者にとって非常に有意義な経験になられる事と思います。私どもでお役に立てる部分が少しでも御座いましたら幸甚です。2011年3月の航空券代金についてご案内させていただきます。下記をご査収下さいませ。

■タイ国際航空利用・セイバーアドバンテージ・カトマンズ行き

- 1) 必要旅行日数：2日以上 45日以内
- 2) 予約変更・経路変更：不可
- 3) 発券制限：予約作成後、72時間以内購入・発券制限付
※ただし、旅行開始の7日前までに行うこと。
- 4) 週末追加代金：日本発・土日+12,000 バンコク発・土日+12,000
- 5) キャンセル待ち：不可
- 6) 日本国内適用都市：成田・羽田・名古屋・関西・福岡は追加料金無し
※札幌・仙台・新潟・小松・沖縄・旭川・釧路・帯広・函館・秋田・高松・高知
松山・米子・広島・長崎・熊本・宮崎・鹿児島：12,000 追加
- 7) 変更・取消料：航空券発券手続後の変更・取消につきましては、30,000の
払戻手数料が発生致します。

<スケジュール例>

- 3/01 (火) TG673 関空 00:30---バンコク 05:00 Q
- 3/01 (火) TG319 バンコク 10:30---カトマンズ 12:45 Q
- 3/11 (金) TG320 カトマンズ 13:50---バンコク 18:25 Q
- 3/11 (金) TG622 バンコク 23:15---関空 06:25 Q 3/12 (土)

※Qクラスという予約クラスにてお席を確保できますと、最安値のご料金をお使い頂けます。

<お見積>

- ¥ 85,000 往復料金(往路・復路ともに平日設定の場合)
- ¥ 2,650 関西空港使用料
- ¥ 1,940 ネパール TAX※1
- ¥ 17,560 燃油サーチャージ+航空保険料※1
- ¥ 1,500 発券手数料※2

¥ 108,650 お一人様

※1 上記の TAX・サーチャージにつきましては、今週の発券レート・USD1=86.74円に基づいて算出致しました。

為替変動に伴いましてお見積額に変動がございますので、予めご了承下さいませ。

※2 弊社の手配手数料：1500と、発券元(ex.JTB)の手数料：1,000を加えてお見積致しました。

なお、タイ国際航空のHPならびに予約窓口よりご購入頂きますと、1,500の発券手数料分の減額できます。ご検討下さいませ。

バンコク⇄カトマンズ区間は、ロイヤルネパール航空が運航しております、

RA402 便 バンコク 14:15---カトマンズ 16:00 月・水・金

RA401 便 カトマンズ 08:35---バンコク 13:15 月・水・金

日本⇄バンコク間の区間と別手配することで、若干お値段を安く算出できるかもしれません。しかしながら、2010年9月6日（月）現在、RAのご料金が確定していないことと、フライトの運行が非常に不規則であるということから、今回はお見積から外させて頂きました。バンコク⇄カトマンズ間は、およそUSD400でありますので、日本⇄バンコク間の航空券と合算して頂いた場合とでは、それほど大きな差額は発生しないと思われます。日本からネパールまで、同一航空会社をご選択されることをお勧めさせていただきます。

お電話でお話させて頂きました際にも申し上げました、「旅行特別補償保険」について簡単にご説明させていただきます。

主催旅行（旅行会社の企画するツアー）には、主催旅行保険というものが自動的に付帯されますが、手配旅行（航空券+現地手配）については、団体でご旅行される際の保険が付帯されておりませんのでクレジットカードに付帯されている保険等、参加される皆様の任意で保険を付帯して頂くことになります。

団体旅行を主催される方が、万が一の際に保険をかけ忘れた方の事を心配して付帯してかける保険が「旅行特別補償保険」というご理解を頂ければと思います。

例) 10泊11日までの海外旅行について

■死亡・後遺障害： 2,500万円・・・698円

■入院見舞費用： 4万円～40万円・・・7円

■通院見舞費用： 2万円～20万円・・・20円

※携行品損害補償： 14万7千円・・・73円

798円（お一人様）

主催旅行に対して、ご旅行される方々のオーダーメイドの旅行の事を「手配旅行」と称します。

今まで、大学・専門学校の研修旅行や、カメラマン・ライターの方が発起人となられて人数を募り集まった皆様のご旅行を手配させて頂く機会がありました際に、旅行会社が手配・企画した旅行ではありませんが参加者の皆様に旅行会社の手配が入っているという安心感を与える上での保険の付帯、日程表の送付万が一の際に現地との連絡を取る為の日本の連絡先としてのお手伝いをさせて頂いた経験が御座います。

私どもでお手伝い出来ることが御座いましたら、是非検討させて頂けたらと考えますのでお問い合わせ下さいませ。

ご案内が遅くなりましたが、以上お見積とさせていただきます。

その他、ご不明な点等御座いましたらお気軽にご連絡下さいませ。

失礼致します。

.....社 担当者氏名

資料 IIC ネパールのトレッキング会社への見積り依頼・交渉（5件）

資料 IIC-1 再見積もり依頼

December 7th, 2010

Dear Friend,

Thanks for the itinerary and quotation.

I tried to go through it and found some problems.

First of all, the price is too high. At the time when I showed you the original program, you proposed me 55 USD per day per head, including everything. At that time, I also tried to collect quotations from other two companies in Kathmandu, who also gave me quotations of not very high price. Comparing them, and based on my belief with you, I decided to contract with you, and then based on that provisional quotation, I already circulated an advertisement to Japanese geological society members so that they can collaborate with us in sending students to the present program.

As I told you, the present program is conducted without any profit at our side, and even the Japanese travel agency who is offering air ticket for us promised the same. Actually I have found that 55 USD per head per day is too low and very severe for you including domestic flights, and have been suspicious if you can really manage with that quotation. However, the present quotation is just double the previous one.

Please try to re-calculate and re-submit me the quotation at your earliest conveniences, say within two weeks in the latest, along with details of calculations. I will again try to collect from other trekking agencies and then re-consider whom to request the work.

Regards,
Yoshida

資料 IIC-2 新旅行日程などの送付

Dec. 10th, 2010

Dear Friend,

Sent herewith please find a new itinerary for the student excursion in March 2012. Almost all cars used are of public, or local chartered car/bus. Only the traffic of 7th and 8th for the Jomson flight plan can be the specially chartered bus. In case the flight appears to be cancelled, then the Jomson flight cancel-plan will be adopted.

Please make up the quotations for the two itineraries. Please clarify prices for each items, e.g., stay, meal, car rental, public transportation etc.

Regards,
Yoshida

Itinerary for making quotation of student exercise in 2012

<i>Days</i>	<i>Itinerary</i>	<i>Major necessary costs to be quoted</i>	<i>Subsidiary expenses to be quoted</i>
Day 1	Arrive from Japan, Stay in KTM	Lodging fee with breakfast per head	Lunch and Dinner
Day 2	Stay in Kathmandu	Ibid	Ibid
Day 3	Kathmandu to Pokhara by Tourist Bus	Tourist bus fee per head	Ibid
Day 4	Pokhara -Jomson -Muktinath - Kagbeni by Air, Jeep and walk.	Flight fare per head, Chartered jeep per one vehicle. + three meals plus three teas per head	Lunch and dinner and three teas
Day 5	Kagbeni to Kalopani, bus and walk	Chartered bus per one vehicle	Ibid
Day 6	Kalopani to Tatopani by walk only, sendinga baggages by a car	Sendinga van, associated with a sherpa)	Ibid
Day 7	Tatopani to Pokhara by a chartered local bus	Chartered local bus per one vehicle	Ibid
Day 8	Stay in Pokhara	Chartered bus surrounding Pokhara per one vehicle	Lunch and Dinner
Day 9	Pokhara - Tansen Lumbini by a Chartered bus	Chartered bus per one vehicle	Ibid
Day 10	Lumbini to Kathmandu by a chartered bus.	Chartered bus per one vehicle	Ibid
Day 11	Stay in Kathmandu	Chartered bus surrounding Kathmandu	Ibid
Day 12	Departs Kathmandu for Japan		

Other necessary works to be managed by the trekking agency or by ourselves

1. Trekking Permit (TIMS)
2. ACAP
3. One guide employment fee per day
4. A sherpa employment fee per day
5. Arrangement cost for a travel agent, with permissions
6. Arrangement fee for a travel agent without getting TIMS and ACAP permissions
7. Any other cost that are considered to be necessary
8. Any other special discount or service by the travel agent, such as for a group leader etc, e.g., for flight charge etc.

Student Himalaya Exercise tour Itinerary 20101208

	<i>(1) Jomson flight plan</i>	<i>(2) Jomson flight cancel-plan</i>
0	Depart Japan for Kathmandu	Depart Japan for Kathmandu
1st day	Arrive Kathmandu from Japan. Visit Geology museum, Trichandra campus, interaction with TU students. Stay in Kathmandu.	Arrive Kathmandu from Japan. Visit Geology museum, Trichandra campus, interaction with TU students. Stay in Kathmandu.
2	Kathmandu - Pokhara, by Greenline Bus. Stay in Pokhara.	Kathmandu - Pokhara, by Greenline Bus. Stay in Pokhara.
3	Pokhara (air)-Jomson-(car)-Muktinath - (on foot)-Kagbeni (Stay)	Pokhara - (bus)-Tatopani (Stay)
4	Kagbeni - (on foot)-Jomson-(car)-Kokhethati - (on foot)-Lete (stay)	Tatopani - (car) - Kagbeni (Stay)
5	Lete- (on foot)-Tatopani (Stay)	Kagbeni - (car) - Muktinath - (on foot)-Kagbeni - (on foot)-Jomson (stay)
6	Tatopani - (bus) - Pokhara.	Jomson -(car)-Tukche - (on foot) - Lete (stay)
7	Stay in Pokhara, visiting geological sites surrounding Pokhara by chartered bus.	Lete-(on foot)-Tatopani (Stay)
8	Pokhara - (bus) - Tansen - (bus) - Bhairawa (Stay).	Tatopani -(bus)-Pokhara (Stay).
9	Bhairawa - (bus) - Kathmandu	Stay in Pokhara, visiting geological sites surrounding Pokhara by chartered bus.
10	Stay in Kathmandu, summary symposium at Tribhuvan University.	Pokhara -(Greenline bus)-Kathmandu
11	Kathmandu town observation guided by TU students.	Stay in Kathmandu, summary symposium at Tribhuvan University.
12	Depart Kathmandu for Japan	Depart Kathmandu for Japan

資料 IIC-3 ネパールのトレッキング会社 A の回答

Dec. 14th, 2010

Dear Prof. Yoshida san

Good afternoon & Namaste !!! Thank you for your email , Regarding your email ,

- 1> Hotel Shakti 3 Night U S \$ 60 Per person.
- 2>In Kathmanu Arrival , Departure , Visit Trichandra Campus , Kathmandu sight seeing , All Land Transportation U S \$ 15 per person.
- 3> Kathmandu Pokhara Greeline Bus U S \$ 20 Per person.
- 4> Pokhara Hotel Candle INN 2 night U S \$ 40 Per person
- 5> Pokhara - Jomsom Flight U S \$ 80 per person.
- 6> Tansen Hotel 1 Night U S \$ 25 Per person
- 7> Bhairawa Hotel 1 night U S \$ 40 Per person
- 8> Bhairawa -Kathmandu Flight U S \$ 108 Per person.
- 9> 1 guide , 2 assistance guide , their food , hotel , Flight , Day 2 till day 8 , Food , Hotel , Hot drinks U S \$ 55 x 7 days= U S \$ 385 per person.
- 10> 3 Jeep Jomsom to Muktinath U S \$ 40 per person .
- 11> Jomsom Late , late Tatopani , Tatopani Pokhara 1 Big Bus U S \$ 75 per person .
- 12> Pokhara , Tansen , Tansen Bhairawa 1 big bus U S \$ 40 per person.

So Yoshida San On Top of this please add in two year its price increase about minimum 10 % extra & My Margin too.

Or send me a quotation that you receive with other company , I will work out with that quotation & discuss about it.

資料 IIC-4 ネパールトレッキング会社 B の見積もり

Sept. 4, 2011

Tentative Quotations for the Student Exercise (15 students) in Kaligandaki in March 2011 (1USD=¥80=Rs70)

<i>Grouping of payment</i>	<i>Details of payment</i>	<i>Trekking Agent quotation (18-20 participants), mostly in NRs</i>	<i>USD/Per head (15), calculated by Yoshida</i>	<i>3 Nepal people per head,, estimated by Yoshida</i>	<i>Remarks</i>
<i>Lodging is twin room (hopefully)</i>	Kathmandu	1500 with 3 meals/head	236.0	150.3	<i>*Rs1500 per head, with 3 meals, teas</i>
	Pokhara	1500 with 3 meals/head			
	Lumbini	1500 with 3 meals /head			

<i>toilet+shower attached, except in mountains)</i>	Mountain	1500 with 3 meals, teas, 2 little of mineral water			<i>and 2 little of mineral water</i>
Local Traffic	KTM-PKR	Rs450/head	6.4	6.4	
	PKR-JOM	82, 1 free for 15	82.0	47.4	
	JOM-MUK	12000x3 or 1000/ head for share jeep	34.3	34.3	Jeep has 12 sheets
	KGB-JOM	Rs 8000	7.6	7.6	
	JOM-KLP	21000/bus	20.0	20.0	<i>bus=26 seats</i>
	KLP-TTP ,bage only	12000xbus	11.4	11.4	
	TTP-BEN	20000	19.0	19.0	
	TTP-PKR	Rs12000	11.4	11.4	
	PKR-LBN-KTM	Rs33000	31.4	31.4	
	Kathmandu one day charter bus	\$120	8.0	8.0	<i>Soyanbu, Bhaktapur, Durbar Square.</i>
	Pokhara, one day charter bus	5000	4.8	4.8	
	PKR AP-H	1000	1.0	1.0	
	KTM AP-H	2000	2.0	2.0	
Taxes	TIMS				
	ACAP	3280 per head	46.9	16.8	<i>Nepali fee is not clear</i>
Trekking Agent, Guide and Sherpa	Agent Comission				<i>Agent commission is included in each item, such as local transportation fee T</i>
	1 guide + 1 Sherpas	2000x2x4days	10.7	10.7	
Total/head (15 packs)**		44500 rupees = \$636/head	532.9	369.1	

* Kathmandu lodging is relatively high, and so we hope to add some more for Kathmandu stay+ meals.

*: Total cost differs by number of participants. Generally +- one participants reflect 50 USD change.

Yellow highlighte: *Arbital number given by Yoshida and to be ascertained.*

One team leader is free of paying the total amount, if the participants exceed 15. And in case less than 15, he/she has to pay ACAP & TIMS

資料 IIC-5 ネパールのトレッキング会社 (ディプロマート社) による出発直前の最終見積もり A 及び B (実際にはこの見積もりにポカラフライトキャンセルと運賃値上げに伴う見直しが加えられた)

Quotation A. Quotation for the Student Exercise (17 tourists including a leader)*1 in Kaligandaki in March 2011 (1USD=¥80=Rs70) (Revised, Sept. 10th, 2011, Rerevised 20120103)

Grouping of payment	Details of payment	Quotation*5			SUM *4		Remarks
		14 Japanese and 3 Nepalese			Sum in USD for Japanese (14 packs)	Sum for Nepali (3 packs)	
		Quotation for 18-20 participants (Mostly in rupees)	USD/Per head calculated by Yoshida for 14 packs	USD/per head for 3Nepali			
Lodging, meals, teas and mineral water *2, *3	Kathmandu (4)	2000 with 3 meals/head 2000x4/70=114.3	114.3		4,100.2	535.8	
	Pokhara (2.5=2)	1500 with 3 meals/head 2000x4/70=114.3					
	Lumbini (1)	1500 with 3 meals /head	178.6	178.6			
	Mountain (3.5=4)	2000 with 3 meals, teas, 2 little of mineral water					
SUM		(1500x2+1500x1+2000x4)=18000; 18000/70=178.6					
Local Traffic	KTM-PKR bus	450/70/17=6.4	6.4	6.4	89.6	19.3	Tourist bus, 450/head
	PKR-JOM flight	\$82	82.0	47.4	1,148.0	142.1	1 free for 15 people
	JOM-MUK jeep	12000x2 or 1000/ head for share jeep 24000/70/17=20.2	20.2	20.2	342.9		Jeep has 12 sheets
	KGB-JOM vehicle	Rs 8000/70/17=6.7	6.7	6.7	114.3		Jeep for luggages
	JOM-KLP bus	21000/70/17=17.6	17.6	17.6	300.0		Chartered bus=26 seats
	KLP-TTP jeep or bus, bage only	12000/70/17=10.1	10.1	10.1	171.4		Jeep or bus, luggages only
	TTP-BEN bus	20000/70/17=16.8	16.8	16.8	285.7		Chartered bus, 24 seats
	TTP-PKR	12000/70/17=10.1	10.1	10.1	171.4		Tourist mini bus, 25 sheets
	PKR-LBN-KTM	33000/70/17=17.7	27.7	27.7	471.4		Chartered bus
	Kathmandu one day charter bus	\$120/17=7.1	7.1	7.1	120.0		Soyanbu, Bhaktapur, Durbar Square.

	Pokhara one day charter bus	5000/70/17=4.2	4.2	4.2	71.4	Charetered bus
	PKR AP-Hotel	1000/70/17=0.8	0.8	0.8	14.3	
	KTM AP-Hotel	2000/70/17=1.7	1.7	1.7	28.6	Arrival and departure
Taxes	ACAP&TIMS	3280 per head/70=46.9	46.9	16.8	656	50.4 <i>Nepali fee is not clear</i>
Trekking agent, Guide and Sherpa *6,8	1 guide + 1 Sherpas	Sherpa: 2000x4+ Guide: 2500x4=18000; 18000/70/17=15.1	15.1	15.1	257.1	Fees include their work, lodgings, meals etc.
	Flight PKR-JOM for 2 people	\$47.4x2/17=5.6	5.6	5.6	94.8	
Total			571.9	387.3	8437.1	747.7 Grand sum *7 8437.7+747.7= 9,185.4

Further remarks for the Quotation A, to be referred to asterical numbers on the quotation

**1 Participants include 14 Japanese (12 students and 2 teachers including Yoshida) and 3 Nepalese (including 2 students and one teacher).*

**2 Lodging in mountains are not requested to be attached with toilet and shower with the room, and teas in mountains are not necessary to be by a cup; we can buy by kettle or can be produced by our sherpas.*

**3 Rs 2000 for lodging with meals, teas and waters per day in Kathmandu is a little high, and I expect the excess amount can be used for meals. For lodging in Kathmandu, I recommended Diplomat to consult with Mr. Sushil Singh who will be able to provide good quality lodgings and meals economically.*

**4 Total cost differs by number of participants. The cost for a person is 492 USD and for common is 163.4. Generally +- one participants reflects +- 13USD change (163.4/number of participants), but if number of jeeps comes to be changed, then greater change of cost happens.*

**5 Diplomat offered the following conditions; One team leader is free of paying the total amount by the courtesy of DIPLOMAT, if the participants exceed 15. This means 6.7 percent bargain of the total amount. And in case less than 15, the leader has to pay ACAP & TIMS.*

**6 Agent commission is included in each item, such as local transportation fee, guide and sherpa fee, etc, and so need not to be counted separately.*

**7 One leader is free for over 15 participants, and the total participants are 17. However, Japanese are less than 15 and so, ACAP+TIMS fees and PKR-JOM flight fare should not be free. Thus the total amount to pay to Diplomat comes 9185.4- (571.9-46.9-82.0) = 8742.4 USD*

**8 The guide is expected to practically assure lodgings and transportations in mountains. By the way, I know a good sherpa who has worked sincerely and economically with the Tribhuvan University group and me, and if Diplomat hopes, please consult with me to contact with this sherpa..*

Yellow-highlite: Arbitral numericals given by Yoshida and are expected to be ascertained by Diplomat

Quotation B; Quotation for individual participants (total participants are 17) of the Student Exercise in March 2011 (1USD=¥80=Rs70) (Revised, Jan. 3rd, 2012)

Grouping of payment	Details of payment	Diplomat Quotation for 18-20 participants (Mostly in rupees)	Calculated amounts (USD, Individual-based)		Calculation from the grand total
			USD/Per head (13 people)	USD/per head for 3 Nepalese	
Sum, Quotation A					8437.7 +747.7-(387.3+9.5) x2-443= 7949.2, 7949.2/13=611.5
Calculated Amount per head (by 13)			571.9	387.3	645.5
Other Expenses (for 13 participants)	Guidebook	¥2000 (\$25)	18.8	9.5	18.8
	Sleeping bag	Rs70/day/head			
	TU management	1,100.0	85.0	0.0	85
	GIGE Management	¥50000 (\$714.3)	48.1	0.0	48.1
	Nepali lecturere tour *2	387.3	29.8	0.0	0
	Japanese lecturere tour *2	571.9	44.0	0.0	0
	Japanese lecturere overseas flight	¥91800/80=1148 1148/2=574 *3	44.2	0.0	44.2
Subtotal_2			269.9	9.5	196.1
Flight Jpn-Ktm	KIX-KTM	¥1019850/80/13=980.6	980.6	0.0	980.6
Oil charge	KIX=KTM	Included in the above	0.0	0.0	0.0
VISA Nepal Immgration			25.0	0.0	25.0
Airport tax KTM			28.8	0.0	28.8
Subtotal_3			1,034.4	0.0	1,034.4
Grand Total			1876.2	396.8	1876.0
JPN=x80	80		150096.0	31744.0	150080
JPN Yen=x75.7	75.7		142028.3	30037.8	142013.2

*1 Fees for Nepalese students are to be paid by the courtesy of Dr. T. Sakai, and the amount is (387.3+9.5)x2=793.6 USD.

*2 These fees are already counted in Quotation A, and not re-counted here.

*3 A half amount for Yoshida's flight fare is paid by Geoplanning Co, because he is to participate the Geoplanning tour in March.

資料 III 日本国内の地学関係教室／学科対象アンケートなど

資料 III-A 学生のヒマラヤ野外実習ツアーの単位振り替え 検討のお願いとアンケート

学生ヒマラヤ野外実習プロジェクト*

2010年12月15日

・・・大学・・・教室／学科御中

学生のヒマラヤ野外実習ツアーに対する単位認定ご検討のお願い

拝啓 貴教室におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、地学関連分野における野外調査の重要性は言うまでもありませんが、残念ながら現在の日本の大学では必ずしもその教育が十分にカバーできているとはいえない状況です。そのため、大学の専門の学科から、野外地学に自信のない学生が社会に送り出されている場合が少なくありません。しかし一方、国内外の開発事業や災害対策の現場、あるいは研究教育現場においては、野外地学調査のできる人材が強く求められています。若い学生時代に魅力的なヒマラヤの野外地質に触れることは、野外地学勉学の志向性を高めることはもとより、国際的な学問・学界への理解を大きく増進し、地学勉学の大きな刺激になります。

ヒマラヤの野外調査研究を長年実施してきた私たちは、日本の学生を是非ヒマラヤに触れさせたいとの思いから、ネパール国立トリブバン大学トリチャンドラキャンパス地質学教室と共同で本プロジェクトを立ち上げました。同教室は、ネパールを代表する地質学、応用地質学教室であり、優れた学生指導と国際的研究の実績を持っています。同教室ではとくに野外地質学実習を重視し、毎年2回数週間の学生合宿実習を行い、全教員がこれに参加しています。一方同教室では、1970年代から日本の地学研究者をJICAの教員派遣等で受け入れており、日本との深い繋がりを持って来ました。例えば学位を持つ教員の半数以上は日本で教育を受けていますし、全教員の半数以上が日本人研究者らとの共同研究実績を持っており、或いは現在実施中です。日本の学生をヒマラヤに招待することは、同教室の長年の願望でもありました。

プロジェクトでは、本計画を実現するために質の高い指導、安全なツアー、最安価で事業主体の利益ゼロの実習プログラムを計画しました。詳しくは別紙「学生のヒマラヤ野外実習プ

* 世話人：吉田勝（ Gondwana 地質環境研究所・トリブバン大学）、Bishal Nath Upreti（トリブバン大学トリチャンドラキャンパス地質学教室）、在田一則（北海道大学総合博物館）、酒井哲弥（島根大学総合理工学部）。

連絡先：〒648-0091 和歌山県橋本市柱本 147-2 Gondwana 地質環境研究所 吉田勝。

電話／ファックス：0736-36-7789. E-mail:gondwana@gaia.eonet.ne.jp

URL: <http://www.geocities.jp/gondwanainst/>

プログラム」をご参照ください。私たちは、このプログラムは世界のどこと比べてもそんな色のないものと自負しています。これらのことから、本プログラムには多くのシニア専門家と主要な関係学会のご推薦を頂いております（別紙資料1）。

つきましては、本ツアー参加の貴教室の学生・大学院生に対する単位付与（認定）をご検討頂き

たく、お願いします。なお、恐縮ですが、ご検討結果を同封の返信用ハガキでご連絡下さいますよう、お願いします。貴教室のご理解とご協力を心からお願いします。

敬具

単位振り替えに関するアンケート（返信はがき）

学生のヒマラヤ野外実習プログラム参加学生に対する単位付与について（下記の4オプションより適当なものにチェックをお願いします）

- 成績により単位を与える
- _____年 ____月頃までに検討する
- 単位付与は検討しない
- 詳細を知りたいので連絡を待つ

貴教室の名称：

本件担当者のご氏名と連絡方法(電話／ファックス／E-mail等)：

その他

資料 III B 参加者仮募集開始のお知らせ、協力願いとアンケート

.....大学学部.....学科
主任様

早春の候貴教室におかれましては益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、「学生のヒマラヤ野外実習プロジェクト」では、2012年3月に日本の学生、教員や関連分野企業の新人社員等を対象とするヒマラヤ野外実習プログラムを実施することになりました。つきましては、「学生のヒマラヤ野外実習プログラム」実施要綱をお届けしますので、貴教室・学科所属学生への適用・推薦・情宣等の可否についてご検討下さいますよう、お願い申し上げます。

また、恐れ入りますがご検討の結果について、同封のアンケート（はがき）をご記入のうえ、ご投函下さいますよう、お願いします。アンケートご回答に基づいて今後のご連絡などをさせて頂きます。

なお、参加者募集ビラを同封させて頂きました。よろしければ学生への情宣等の機会にご利用頂ければ幸いです。また、参加学生に対する実習単位付与が可能である場合や、ご検討中のときは、その旨も同時に学生にご周知いただけますよう、お願いします。

2011年3月15日

学生のヒマラヤ野外実習プロジェクト

代表 吉田勝

ゴンドワナ地質環境研究所

www.geocities.jp/gondwanainst/

E-mail: gondwana@gaia.eonet.ne.jp

電話／ファックス 0736-36-7789

同封書類

1. 学生のヒマラヤ野外実習プログラム実施要綱（資料1～4添付）
2. アンケートはがき及び控用フォーム
3. 学生のヒマラヤ野外実習プログラム参加者募集ビラ（掲示用）

.....

学生のヒマラヤ野外実習プログラムアンケート

（2011年3月、返信はがき）

（ ）内の *Yes* 或いは *No* を囲んで下さい。

★教室／学科として本プログラムに賛同し、学科カリキュラムの単位振替えを考慮する
(*Yes/No*)

★教室／学科として本プログラムに賛同し、学科カリキュラムの単位振替えを考慮しない
(*Yes/No*)

★本プログラムを学生に情宣する (*Yes/No*)

★参加者募集ビラを掲示する (*Yes/No*)

★本プログラム実施要綱や添付資料等を保管し学生閲覧に供する (*Yes/No*)

★今後このプログラム関係の連絡を送ってほしい (*Yes/No*)

その他ご意見、ご質問等ご自由に余白にお書き下さい。また、今後の連絡先としてご指定があればお書き下さい。なるべく E-mail アドレスをお願いします。

2011年9月24日

学生のヒマラヤ野外実習ツアー募集開始について

・・・大学・・・学部・・・教室／学科御中

日ごとに秋の気配が濃く感じられるこの頃ですが、貴教室におかれましては益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、かねてご連絡を差し上げておりました「学生のヒマラヤ野外実習プログラム」(2012年3月実施予定)について、本募集の時期となりましたので、実施要綱、参加者募集ビラなどを同封お送りさせていただきます。つきましては、貴教室・学科所属あるいは関係する学生・院生への情宣をよろしくお願い申し上げます。同封の参加者募集ビラをご利用頂ければ幸いです。また、さきに(本年3月)にお送りさせていただきました資料などもご利用頂きたく、よろしくお願ひします。

なお、実習日程や日本出発・帰着日程につきましては、利用航空会社と航空機によって1日前後のずれが生じることをご承知下さり、参加希望学生にもその旨をお伝え下さいますよう、お願ひします。

この書類一式はペーパーファイルを郵送させていただきましたが、メールアドレスを頂いた皆様へはメールでも電子ファイルをお届けさせていただきました。今後も本件についての情報をご希望のときは、恐れ入りますが、お届け先のメールアドレスを吉田まで(下記のメールアドレス宛)ご通知下さるよう、お願ひします。

学生のヒマラヤ野外実習プロジェクト
代表 吉田勝
ゴンドワナ地質環境研究所
www.geocities.jp/gondwanainst/
E-mail: gondwana@gaia.eonet.ne.jp
電話／ファックス 0736-36-7789

同封書類

1. 第1回学生のヒマラヤ野外実習プログラム(2012年3月)実施要綱
(資料1、2添付)
2. 学生のヒマラヤ野外実習プログラム参加者募集ビラ(掲示用)

学生のヒマラヤ野外実習プログラムに関する協力依頼等を送った
地学関係教室・学科等

北海道大学理学部地球惑星システム科学科	京都大学理学部地球惑星科学教室
弘前大学工学部地球環境学教室	京都大学工学部地球工学教室
秋田大学工学資源学部地球資源学教室	京都大学総合人間学部自然環境学教室
山形大学理学部地球環境学科長	大阪大学理学部物理学科
東北大学理学部地球惑星物質科学教室	大阪市立大学理学部地球学教室
群馬大学教育学部地学教室	神戸大学理学部地球惑星科学教室
筑波大学理学部地球環境科学教室	和歌山大学教育学部地学教室
茨城大学理学部地球環境科学教室	島根大学理工学部地球資源環境学科
茨城大学教育学部地学教室	岡山大学理学部地球科学科
埼玉大学教育学部地質学教室	岡山大学教育学部地学科
埼玉大学工学部建設工学教室	広島大学理学部地球惑星システム学教室
千葉大学理学部地球科学科	広島大学総合科学部自然環境科学教室
東京大学理学部地球惑星科学教室	山口大学理学部地球圏システム科学教室
東京工業大学・大学院理工学研究科地球惑星科学専攻	香川大学工学部安全システム建設工学教室
日本大学文理学部地球システム科学科	香川大学教育学部地学教室
早稲田大学教育学部地球科学教室	高知大学理学部地球科学教室
横浜国立大学教育人間科学部地球環境学課程	高知大学教育学部地学教室
新潟大学理学部地質科学教室	愛媛大学理学部地球科学教室
新潟大学教育学部	愛媛大学工学部環境建設工学教室
富山大学理学部地球科学教室	愛媛大学教育学部地学教室
金沢大学理工学部自然システム学教室	九州大学・大学院理学研究院地球惑星科学部門
信州大学理学部地質科学教室	九州大学工学部地球環境工学科
静岡大学理学部地球科学教室	福岡教育大学地学教室
静岡大学教育学部地学教室	長崎大学教育学部地学教室
東海大学海洋学部海洋資源学教室	熊本大学理学部地球環境科学教室
東海大学海洋学部地球環境科学教室	熊本大学教育学部地学教室
名古屋大学理学部地球惑星科学教室	鹿児島大学理学部地球環境学教室
三重大学教育学部地学教室	鹿児島大学教育学部地学教室
滋賀大学教育学部地学教室	琉球大学理学部物質地球科学教室
	琉球大学教育学部地学教室

資料 III-E 単位振替えについてのアンケート結果

学生のヒマラヤ野外実習ツアーの単位振替えについて可能、あるいは検討可能と回答した学科／教室

学科／教室	単位振替え
北海道大学理学部地球惑星システム科学科	振替えを検討したい
山形大学理学部地球環境学科	単位を与える
東京大学理学部地球惑星環境学科・大学院理学研究科地球惑星科学専攻	振替えを検討したい
横浜国立大学教育人間科学部地球環境課程	平成23年4月の改組後に検討する
名古屋大学理学部地球惑星科学教室	振替えを考慮する
香川大学工学部安全システム建設工学科	振替えを検討したい
島根大学理工学部地球資源環境学科	単位を与える
広島大学大学院理学研究科地球惑星システム学専攻	振替えを考慮する
琉球大学理学部物質地球・地学系	振替えを考慮する

(2010年12月及び2011年3月アンケートから)

資料 IV 参加者募集と実施要項

資料 IV-A 参加者募集ビラ

**1 回学生対象ヒマラヤの地学野外実習
参加者募集**

- 2012年3月、14日間で20万円以内 -

(地学団体研究会・国際ゴンドワナ研究連合・ネパール地質学会・日本地質学会・
日本応用地質学会推薦)*1

造山帯の真髄をヒマラヤで勉強する！

ヒマラヤを研究してきた日本全国の大学教員、元教員や技術者ら 31 人*2が、日本の学生に素晴らしいヒマラヤの地学と自然環境を実地で実習指導するボランティアを引受けました。航空運賃、宿泊費、食費、現地ガイドやポーター等の必要経費一切込みで参加費学生 1 人 20 万円を目指す、実施主体の利益なし完全ボランティアのプログラムです。詳細は添付の「学生のヒマラヤ野外実習プログラム」実施要綱をご覧ください。島根大学や山形大学など、いくつかの教室・学科では参加学生に対して実習単位の付与が可能になり、或いはその方向を検討中です。なお、本プロジェクトには関係分野企業の新人社員もご参加頂けます。

お問合せ

参加ご希望、あるいはご興味の方は、下記世話人らのいずれかにご連絡、お問合せ下さい。なお、世話人らは国内外の出張業務など多用のため、ご返事が遅れる場合があることをお含みおき下さい。

1. ゴンドワナ地質環境研究所 吉田勝 E-mail: gondwana@gaia.eonet.ne.jp
2. 北海道大学総合博物館 在田一則 E-mail: arita@museum.hokudai.ac.jp
3. 島根大学総合理工学部 酒井哲弥 E-mail: sake@riko.shimane-u.ac.jp

なお、実習単位付与が可能な教室・学科等での単位取得手続き等については教室・学科等の担当教員等にお問い合わせ下さい。

実施概要

<実習実施日> 2012年3月4日～17日、出国から帰国まで13～14日間（利用航空会社によって変わります）

<参加費用> 学生・大学院生：約20万円以下、その他の参加者：約30万円以下

<参加申込み開始>2011年9月1日 <締め切り> 2011年11月末日

なお、お問合せは随時できます。申込者40人に達した後はキャンセル待ちとなります。

<参加費支払い期限> 申込金（参加費の30%）：申込み時、参加費（参加費総額の70%）：2011年12月末日

<実施のための最小参加人数>10人（1チーム）、<最大参加可能人数>40人（2チーム）

今後の予定

出発日、正確な参加費や詳しい旅行条件等は目下旅行社と交渉中で、本年9月末日までに確定する予定ですが、ご関心の教室・学科や教員、学生個人には決まり次第随時お知らせします。

推薦者

個人：日本全国のシニアボランティア大学教員、元教員、関係分野企業役員等 36 人*3

団体：地学団体研究会・国際ゴンドワナ研究連合・ネパール地質学会・日本地質学会・
日本応用地質学会

学生のヒマラヤ野外実習プロジェクト*4
(代表 吉田 勝) 2011年5月13日

*1 abc 順 *2 プログラム概要添付資料 2 *3 プログラム概要添付資料 1 *4 世話人：吉田勝（代表、ゴンドワナ地質環境研究所、在田一則（北海道大学総合博物館）、酒井哲弥（島根大学総合理工学部）

学生のヒマラヤ野外実習プログラム

実施要綱*

ネパールのほぼ中央部、ポカラの町の北にアンナプルナとダウラギリという2つの8000m峰があります。この両峯の間を穿つ世界一深いカリガンダキ河に沿って歩くと、美しい山と溪谷、見事な地質、地形、気候帯、植物相がドラマティックに変化します。カリガンダキ河は、ヒマラヤの自然環境、地質構造、自然災害を学ぶ世界最高の野外実習コースです。地質的には、ガンジス平原から亜ヒマラヤ、低ヒマラヤ、高ヒマラヤを横断してテチスヒマラヤまで、ヒマラヤ造山帯を構成するすべての地質帯とそれらの境界の巨大断層を観察できます。

本実習では、この素晴らしいコースを8日間ほどかけて観察します。野外実習の1チームは20人程度以内で最大2チームまでとし、各チームにはヒマラヤの地学研究と野外地学指導経験の豊富な日本とネパールの大学の現役あるいは退職の教員2-4人が同行し、実習指導を行ないます。実施時期は毎年3月上旬ころが適当と考えられ、第1回は2012年3月上旬に設定しました。

実施時期、コースと日程： 第1回は2012年3月上旬とし、以後毎年ほぼ同時期に実施する。出国から帰国まで13~14日間で、内訳は8日間がカリガンダキ河〜ンビニコースの野外実習、1~2日はトリバン大学地質学科学生とグループ討論・交流会及びカトマンズ市内見学、空路往復4日間。コース及び日程の詳細は別紙資料1参照。

参加募集対象者及び参加受け： 募集対象者は全国大学の地学、災害地質、自然環境等に関係する学科の学生、大学院生を主とし、学生の指導教員、中・高校の地学担当教員及び関係企業の新人技術者も受付ける。参加人数は参加者全体で1チーム最大20人、2チーム40人まで先着順で受付ける。参加学生の所属教室からの指導教員は定員外とする。なお、定員から溢れた参加申込み者は次年度参加に優先権を持つ。

参加形態： 下記A、B、C、Dすべてのカテゴリーの参加を受け入れる。

- A 学生、大学院生、教員、企業や団体の新人社員個人やグループの自由参加
- B 大学の正規カリキュラムとしてグループあるいは個人参加
- C 学生や大学院生の卒業/修業巡検などとしてグループ参加。
- D 大学/学校/企業/団体による学生/教員/社員等の派遣
- E 大学/企業/団体による派遣学生・社員等の指導者派遣

指導体制： 各ツアーには、ヒマラヤの地学研究と野外地学指導経験豊富な日本及び現地の大学教員/退職教員(資料2)2-4人が同行指導する。実習テキストは既刊の野外実習ガイドブック*1(英文165頁, Upreti & Yoshida, 2005)を使用する。所属学科や企業の要望がある場合には、当該参加者には野外実習、討論会及び見学会についてレポートを課し、受講状況とレポートについて成績評価を行い、

報告する。

指導内容：具体的な地学関係分野の指導は以下の項目を実施する。なお、参加者各自がヒマラヤの自然を体感すること、英語ガイドブックの集中活用によって英語文献への違和感がなくなることや、現地教員や学生との交流によって国際感覚が高められることも参加者にとって大きな収穫となるであろう。

(1) **実習事前講義(ツアー第1日目と第2日目)：**「ヒマラヤ造山帯の生立ち」、「ヒマラヤ造山帯の構成」、「実習コースの地質と自然災害の特徴」、「野外実習における危険回避対策」

(2) **野外実習内容：**「実習コースの主要地質体の認識」、「地質と自然災害を反映する地形の観察」、「地質露頭の見方と野外における岩石観察の基本」、「断層帯と断層の観察」、「地すべり、土石流と斜面崩壊の観察」、「氷河関連地形、地質と災害の観察」、「野外観察の記録(記載)方法の基本」など

最小実施参加人数及び最大参加可能人数：10人以上の参加申し込み者があったときに実施する。最大参加可能人数は40人(2チーム編成となる)で、定員を超える申し込みがあった場合には先着順とし、もれた人には翌年の優先権を保証する。

参加費用：参加者1人当り学生と大学院生は約20万円以内、その他は30万円以内で、国際フライト、国際フライトオイルチャージ、国内交通費、入国査証取得など海外旅行諸経費および手続き料、海外旅行団体保険、外国宿泊費、食費、野外巡検経費一切(宿舍費、食費、野外での最少必要限の間飲食経費、現地旅行社手数料、ガイド雇用経費、実習指導者らの参加経費、地形図や実習テキスト代、プログラム・ツアー準備経費など)を含む。実施主体等の利益はゼロとし、すべての経費を切り詰めて参加費軽減を目指す。

参加費用に含まれないもの：参加者個人加入の海外旅行障害保険(必ず加入して頂きます、無料～年間1万円程度のクレジットカード付帯保険を推奨)、嗜好品、嗜好飲料、土産代、持病薬。パスポート取得は参加者各自。なお、現地での疾病・傷害治療経費、事故救援経費および家族の海外救援旅費等は海外旅行傷害保険でカバーされますが、保険金が出るまでの間は事業主体、参加者の所属、本人あるいはご家族が上記の順の責任で立て替える。

プログラムの計画・実施に関する責任の所在と範囲：本プログラムは日本側実施主体が統括する。プログラムの実施と事後のすべての責任は日本側実施主体であるゴンドワナ地質環境研究所が負う。実習ツアー実施期間中は、実施主体の依頼を受けて日本人指導教員1人がツアーリーダーとなり、ツアーを統括する。ツアーリーダーはツアーの円滑・安全な実施のため、最善の努力をする義務を負う。他の指導教員らは、ツアーサブリーダーとしてリーダーを補佐する。ツアーリーダーが役割を実行できない状況になったときはサブリーダーの1人がリーダーの役割を代行する。現地旅行社は、ネパール国内におけるツアーの円滑・安全な実施の責任を分担する。同旅行社は、同社所属のツアーガイドをツアーに同行させ、同ツアーガイドにツアープログラムの円滑・安全な運行責任の役割を委託する。ツアーガイドはツアーリーダーを補佐する役割を負う。参加者はツアーの円滑、安全な実施のため、指導教員(ツアーリーダー及びサブリーダ

一) 及びツアーガイドの指示に従う義務を負う。指示によらない参加者の行動によって発生した事態については、行動者の自己責任を原則とし、指導教員、ツアーガイド及び実施主体は責任を負わない。

参加者に事故が発生した場合には、指導教員、ガイド及び実施主体は最善の対応を行なうよう、最大限の努力を行なう。なお、事故の補償が必要なときは、別記の海外旅行傷害保険の範囲*²で補償されるが、それ以上の補償はされない。

プログラムの経理：実施主体が本実習ツアーに関連して利益を得ることは厳禁する。日本人指導教員はボランティアであり、給与・謝金等を受領できない。参加費が余った場合は原則として参加者に全額を返還する（僅少額の場合は次回と同プログラムに繰越金として計上する）。本プログラムに対して外部からの補助金や寄付金等を受領した場合には、参加学生の参加費用軽減以外の用途には使用できない。

プログラム実施報告：プログラムの日本側実施主体は、ツアー終了後 3 ヶ月以内にプログラム実施報告書をまとめ、経理報告を含めて公表し、参加者全員、参加学生の所属教室その他関係機関等に報告すると共に Web サイトで公開する。

発想・企画・準備：「学生のヒマラヤ野外実習プロジェクト」が行なっている。同プロジェクトは日本のヒマラヤ研究者ら 32 人（資料 2）が参加し、世話人グループは吉田勝（代表、 Gondwana 地質環境研究所）、在田一則（北海道大学総合博物館）と酒井哲弥（島根大学総合理工学部）が務めている。

実施主体*³：Gondwana 地質環境研究所（和歌山県橋本市）及びネパール国立トリブバン大学トリチャンドラキャンパス地質学教室（カトマンズ）。

推薦・後援・協賛：日本全国のシニア研究者や関係分野企業役員等 36 人（資料 3）及び関係分野の 4 学会（地学団体研究会・ネパール地質学会・日本地質学会・日本応用地質学会）のご推薦を頂いている。さらに関係学会、団体などにご推薦、後援のお願いを継続する。

また、関係企業や省庁等に資金協力をお願いし、参加学生の負担軽減を図る。

協力：日本の航空券手配担当の旅行社及びカトマンズの旅行（トレッキング）会社（いずれも選考中）。

*¹ 実習テキスト

Upreti, B.N. & Yoshida, M. (2005), Guidebook for Himalayan Trekkers, Ser. No.1, Geology and Natural Hazards along the Kaligandaki Valley, Nepal. Department of Geology, Trichandra Campus, Tribhuvan University, Kathmandu, 165 pages (別紙資料 4)。

*² 海外旅行傷害保険の例

A. **団体海外旅行傷害保険**（実施主体或いは日本の旅行手配会社の責任で加入ができるかどうか検討中。加入した場合はツアー参加者全員に対して適用される。）

死亡・後遺障害：2,500 万円

入院見舞費用：4 万円～40 万円

通院見舞費用：2 万円～20 万円

携行品損害補償：14万7千円

B. クレジットカード付帯の海外旅行傷害保険(参加者個人がそれぞれに加入し、加入者に対して適用される。補償額はカードにより若干の相違がある。一般的な内容は以下のようなものである。)

死亡・後遺症傷害：5000万円

傷害・疾病治療費用：150万円

賠償責任：3000万円

携行品損害：30万円

救援者費用：100万円

***3 実施主体のプロフィール：**

Gondwana地質環境研究所：国際NPOである Gondwana Institute for Geology and Environment (GIGE)の本部である。GIGEは Gondwana超大陸及び現在の Gondwana陸片地域研究者の緩い連絡・協力組織で、組織を構成するフェローは約50人。世界の Gondwana地域8カ国10都市に支所があり、各支所は自由に活動している。本部は和歌山県橋本市にあり、日本では東京と高知に支所がある。任意団体で、本部の事業は数人から10数人の研究者のボランティアで実施されている。2009年度に本部が中心となって実施した主な事業はネパールヒマラヤの地学野外研究、北西インドヒマラヤジオツアーの共同実施、ヒマラヤ野外地学研修ガイドブックの編集やチリパタゴニアツアーの共同企画などで、事業費総額は約322万円。

(Website: <http://www.geocities.jp/gondwanainst/>)

ネパール国立トリブバン大学トリチャンドラキャンパス地質学教室：ネパール最大、最高の地質学教室で教員16人、学部学生約100人の規模を持つ。教室創設の1960年代から、地元ヒマラヤの地質学研究とヒマラヤでの学生野外実習に教室をあげてとりくんできている。日本とのつながりは1970年代から緊密で、共同研究、JICA(国際協力機構)援助による教員の受け入れや研究設備の充実・整備、教員の日本留学が継続的に行われてきた。学位を持つ教員の半数以上は日本留学で学位を取得しており、教員の半数以上は日本人研究者との共同研究の経験を持ち、あるいは現在も実施している。(Website: <http://www.geology.edu.np>)

<別紙添付資料>

1. 「学生のヒマラヤ野外実習プログラム」2012年3月実施予定コースと日程案
2. 「学生のヒマラヤ野外実習プログラム」指導教員候補者名簿(abc順)
3. 「学生のヒマラヤ野外実習プログラム」推薦者芳名簿(abc順)
4. 実習テキストとして使用する地学巡検ガイドブック案内(目次とページ見本)

**学生のヒマラヤ野外実習プロジェクト 2011年3月15日発行*

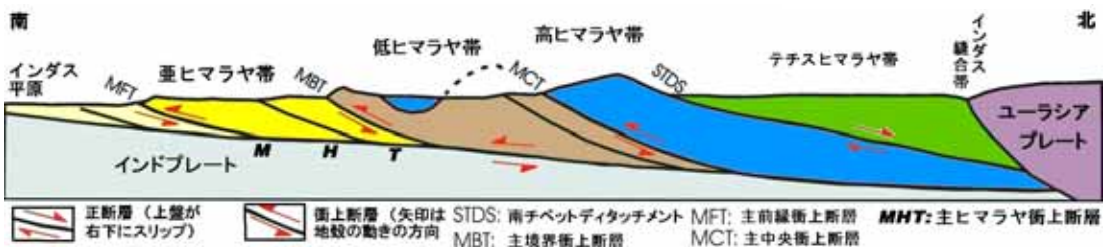
2011年3月学生ヒマラヤ野外実習ツアー日程・コース案

	ジョムソンフライト利用	ジョムソンフライト欠航プラン
第1日	日本発	日本発
2日目	カトマンズ着(泊);トリブバン大学地質学教室訪問、地質博物館見学、同教室学生と交流	カトマンズ着(泊);トリブバン大学地質学教室訪問、地質博物館見学、同教室学生と交流
3日目	カトマンズーバス(公共)ーポカラ(泊):カトマンズーポカラ間とポカラ周辺の地学景観観察	カトマンズーバスーポカラ(泊):カトマンズーポカラ間とポカラ周辺の地学景観観察
4日目	ポカラーフライトージョムソンー車ームクチナートー徒歩(4h)ーカグベニ(泊):テチス層群の観察、化石採集	ポカラージョムソンフライトキャンセルのため、ポカラ周辺の地質と自然災害観察
5日目	カグベニー(徒歩4h)ージョムソン(車)ーコケタティ(2時間見学)ー(徒歩2h)ーレテ(泊):テチス層群、タコーラ層群(第四紀)、巨大地すべり、モレーン地形、南チベットディタッチメント、高ヒマラヤ片麻岩の観察	フライト可能のときはフライと利用日程を追う。フライト見通しの悪いときは車でカリガンダキに入る。 ポカラー(バス)ータトパニ(泊):低ヒマラヤ帯の地質とタトパニ地すべりの観察
6日目	レテ(徒歩5h)ーダナー(徒歩2h)ータトパニ(泊):高ヒマラヤ片麻岩類、主中央衝上断層帯、低ヒマラヤ変堆積岩類の観察、各地質帯中の地すべり、斜面崩壊の観察。	タトパニ(車)ーカグベニ(泊):低ヒマラヤ帯ー高ヒマラヤ帯～テチス帯の地勢観察
7日目	タトパニー(publicバス)ーポカラ(泊):低ヒマラヤ帯の地質と斜面崩壊、地すべりの観察	カグベニー(車)ームクチナートー(徒歩4h)ーカグベニー(徒歩4h)ジョムソン(泊):テチス帯の地質と自然災害の観察、化石採集
8日目	ポカラ周辺の地質と自然災害観察	ジョムソン(車)ーツクチェー(徒歩2h)ーコケタティ(2h)ー(徒歩2h)ーレテ(泊):テチス帯最下部、アンナブルナディタッチメントと高ヒマラヤ帯の観察
9日目	ポカラー(車)ータンセン(車)ーバイラワ(泊):タンセン層群、低ヒマラヤ変堆積岩類、主境界衝上断層、シワリーク層群、主ヒマラヤ前縁衝上断層、ガンジス平野の観察、道路法面崩壊の観察。	レテ(徒歩5h)ーダナ(2h観察)ー(徒歩2h)ータトパニ(泊):高ヒマラヤ帯と低ヒマラヤ帯の地質と自然災害及び主中央衝上断層帯の観察
10日目	バイラワー(車)ーカトマンズ(泊)インダス平野ー低ヒマラヤ帯の地勢観察	タトパニ(車)ーポカラ(泊):低ヒマラヤ帯の地勢観察
11日目	トリブバン大学生の案内でカトマンズ市内および周辺の世界遺産等の見学	ポカラ(車)ーカトマンズ(泊):低ヒマラヤ帯の地勢と地すべりの観察
12日目	カトマンズ発	カトマンズ発
13日目	日本着	日本着



実習ルート周辺の地質概略図と実習コース

点線：主に徒歩ルート
 破線：主に車ルート
 一点鎖線：航空機ルート
 MFT：主前縁衝上断層
 MBT：主境界衝上断層
 MCT：主中央衝上断層
 STD：南チベットディタ
 ッチメント相当境界(ベ
 ースの地質図は
 Department of Geology,
 Nepal Ministry of
 Industry, 1982 による)



ヒマラヤの模式断面(カトマンズ付近)

わかり易く単純化したヒマラヤの地質構造断面が Harris & Whalley (2001) によって描かれている
 (吉田・ウバジアイ, 2009 から)

学生のみマラヤ野外実習プログラム野外実習指導教員候補者名簿 (abc 順)

氏名	専門	所属等
安間 荘	地質学	法地学研究所長
在田 一則	地質学	元北海道大学理学部教授・北大総合博物館研究員
朝日 克彦	地形学	慶応義塾大学環境イノベータコース講師
伏見 碩二	氷河学	滋賀県立大学名誉教授
長谷川 修一	応用地質学	香川大学工学部教授
岩田 修二	地形学	立教大学観光学部教授
加納 隆	地質学	山口大学名誉教授
木村 和雄	地形学	沖縄工業高等専門学校講師
小野 有五	氷河学	北海道大学大学院地球環境科学研究院教授
大和田 正明	地質学	山口大学大学院理工学研究科教授
西城 潔	地形学	宮城教育大学教育学部教授
酒井 哲弥	地質学	島根大学総合理工学部准教授
志村 俊昭	地質学	新潟大学理学部准教授
高木 秀雄	地質学	早稲田大学教育・総合科学学術院教授
高須 晃	地質学	島根大学総合理工学部教授
高安 克己	地質学	島根大学名誉教授
徳岡 隆夫	地質学	NPO 自然再生センター理事長・島根大学名誉教授
豊島 剛志	地質学	新潟大学理学部教授
渡辺 興亜	氷河学	総合研究大学院大学名誉教授・国立極地研究所名誉教授
山田 知己	氷河学	NPO 法人雪氷ネットワーク理事長・元北海道大学低温研究所助教授
吉田 勝	地質学	ゴンドワナ地質環境研究所会長・トリブバン大学名誉教授・元大阪市立大学理学部教授
柚原 雅樹	地質学	福岡大学理学部地球圏科学科助教授

Dr. Bishal Nath Upreti, Geology, Professor, Department of Geology, Trichandra Campus, Tribhuvan University, Kathmandu

Dr. Santa Man Rai, Geology, Associate Professor, same Department.

Dr. Tara Nidhi Bhattarai, Engineering Geology, Associate Professor, same Department.

Dr. Dinesh Pathak, Engineering geology, Associate Professor, same Department.

Dr. Prakash Das Ulak, Geology, Lecturer, same Department.

Dr. Ananta Prasad Gajurel, Geology, Associate Professor, same Department.

Dr. Ranjan Kumar Dahal, Engineering geology, Lecturer, same Department

Dr. Subodh Dhakal, Engineering geology, Lecturer, same Department.

学生ヒマラヤ野外実習プログラム推薦者・団体等ご芳名（abc順）*

個人ご氏名	ご所属等
安藤久男様	地質コンサルタント・元ポカラ山岳博物館学芸員
安間荘様	(株) 法地学研究所長
有馬眞様	横浜国立大学教授
伏見碩二様	滋賀県立大学名誉教授・前ポカラ山岳博物館学芸員
波田重熙様	神戸女子大学学長・神戸大学名誉教授
原郁夫様	広島大学名誉教授
長谷川修一様	香川大学教授
長谷川美行様	新潟大学名誉教授
廣井美邦様	千葉大学教授
石賀裕明様	島根大学教授
石原舜三様	産業技術総合研究所特別顧問・元地質調査所長
岩田修二様	立教大学観光学部教授
蟹沢聡史様	東北大学名誉教授
加納隆様	山口大名誉教授
加藤誠様	北海道大学名誉教授
河原紀夫様	埼玉県 GIS 普及推進研究会理事・元四国航測代表取締役社長
木崎甲子郎様	琉球大学名誉教授
熊井久雄様	大阪市立大学名誉教授
黒田吉益様	信州大学名誉教授
三島史朗様	三島技術士事務所代表・元応用地質(株)専務取締役
中川康一様	NPO 地盤・地下水環境NET理事長・大阪市立大学名誉教授
仲井豊様	愛知教育大学名誉教授
成瀬廉二様	NPO 法人氷河・雪氷圏環境研究舎・元北海道大学助教授
小野有五様	北海道大学教授
島津光夫様	新潟大学名誉教授
白石和行様	国立極地研究所長・同研究所教授
相馬恒雄様	富山大学名誉教授
住吉幸彦様	セントラルコンサルタンツ(株) 社長
諏訪兼位様	名古屋大学名誉教授
高木秀雄	早稲田大学教授
高須晃様	島根大学教授
高安克己様	島根大学名誉教授
竹下徹様	北海道大学教授
徳岡隆夫様	NPO 自然再生センター理事長・島根大学名誉教授
渡辺興亜様	総合研究大学院大学名誉教授・国立極地研究所名誉教授・元研究所長
山田知充様	NPO 法人雪氷ネットワーク理事長・元北海道大学助教授

*2011年3月5日までにご返事を頂いた皆様です。なお、推薦者、推薦団体は本プログラム実施における事故等についてなんら責任を負うものではありません。

地学団体研究会 東京都豊島区
 日本地質学会 東京都千代田区
 日本応用地質学会 東京都千代田区
 Nepal Geological Society, Kathmandu, Nepal
 International Association for Gondwana Research, Kochi, Japan

資料4

ヒマラヤントレッカーズガイドブック シリーズNo. 1 カリガンダキ河沿いの地質と 自然災害（英文）の販売開始

ヒマラヤントレッカーズガイドブックシリーズNo. 1 「カリガンダキ河沿いの地質と自然災害」（英文）の販売を開始しました。

本書はJICAシニア海外ボランティア事業の補助を受け、4回に及ぶ現地の野外調査を踏まえ、トリブバン大学地質学教室教員8人で共同執筆したものです。ガイドブックの前半37ページにはヒマラヤの地質と自然の概説で、新旧の重要文献を引用してあります。ガイドブックの主要部約90ページは、全ルートをカバーする10万分の一程度の詳しい地形図と、165葉のカラー写真や図により、99地点の地質、自然災害観察を説明してあります。一般のトレッカーにも分かるように注意して書かれていますが、さらに、巻末に詳細な文献リストや用語集等を付けて読者の便を図っています。変形A5版アート紙カラー全165ページです。

ガイドブックシリーズNo. 1の初版1000部の売上は、同シリーズNo. 2として目下鋭意取り組み中のエベレスト地域ガイドブック作成費用に向けられます。さらに版を重ねることができると、トリブバン大学地質学教室の野外地質研究の経費補助にも向けられるだろうと、教室教員一同大きな希望を持ってこのNo. 1を発行しました。ご興味の皆様にはぜひ1冊ご購入下さり、カリガンダキ河トレッキングに、あるいは日本や世界各地の自然災害との比較に等々ご活用下さい。

販売価格はネパールの書店等では850ルピー、海外からのご購入は送料、手数料込みで\$40ドルです。但し送金手数料などの関係で、日本以外でのご購入の場合、5冊以下の場合にはVISAカードでのお支払いしかできません。ご購入申込はE-mail、ファックス等で下記までお願いします。

ネパール： B.N. Upreti, E-mail: bnupreti@wlink.com.np
 またはinfo@geology.edu.np,
 Fax: 0977-1-4220476

日本： 吉田勝 648-0091 和歌山県橋本市柱本147-2
 ゴンドワナ地質環境研究所
 E-mail: gondwana@gaia.eonet.ne.jp
 又はgondwana@oregano.ocn.ne.jp
 Fax: 0736-36-7789

<日本の皆様への特別販売>

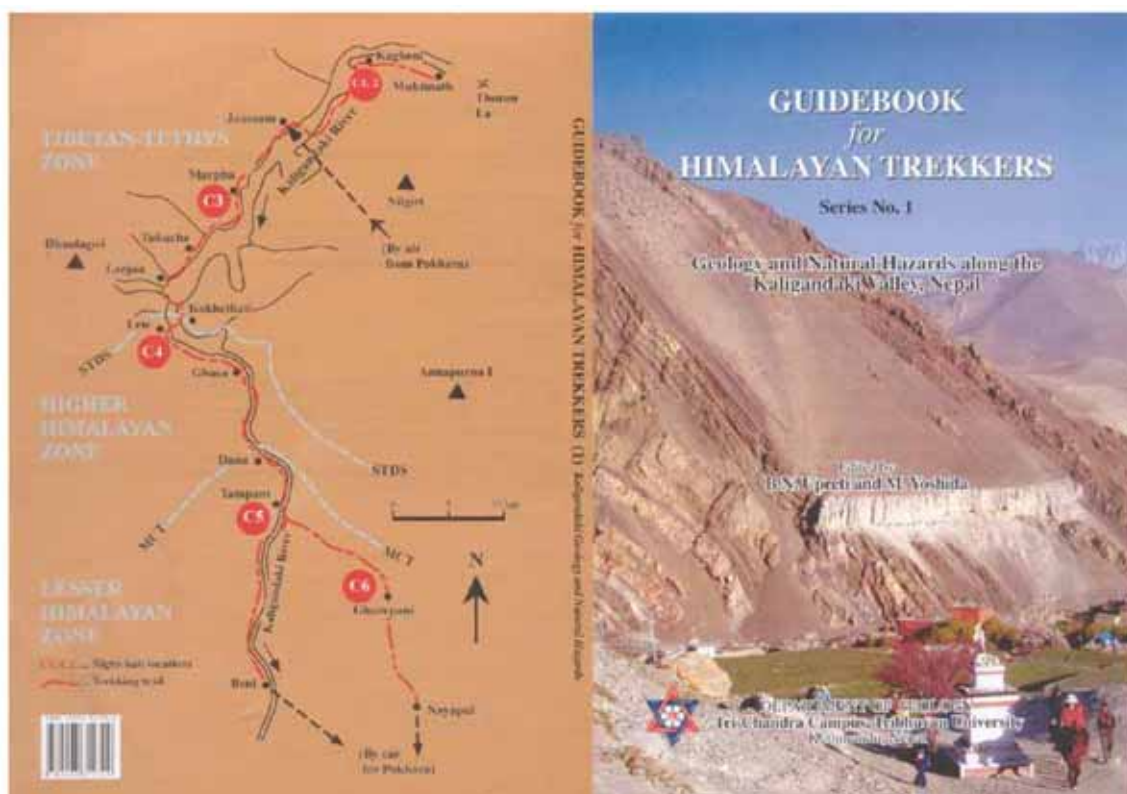
日本の皆様が日本でご購入の場合、円でお支払い頂けます。航空郵送料・手数料込み特別価格1冊4000円です。お支払の方法はVISAカードによる方法のほか、下記の銀行振り込みをご利用頂けます。お振込のご連絡を頂き次第、ガイドブックの発送をさせていただきます。ご連絡を頂いてから2週間以内にお手元にお届けできると思います。

三菱東京UFJ銀行 阿倍野橋支店 (支店番号072)

口座番号 (普通) 5042976

口座名義 (法人) : ゴンドワナ研究会

(2005年10月 吉田勝)



CONTENT

(ABBREVIATED)

<i>Preface</i>	i
<i>About the Guidebook</i>	iii
<i>Model Excursion Route Map</i>	v
<i>Model Excursion Program</i>	vi
THE HIMALAYA	1

Origin of the Himalaya	1
Geologic (Tectonic) Zones of the Himalaya	
General Geology of the Nepal Himalaya	
Physiography of the Nepal Himalaya	
Climate of the Nepal Himalaya	13
Vegetation in the Nepal Himalaya	15
Natural Hazards in the Nepal Himalaya	
GEOLOGY AND NATURAL HAZARDS ALONG THE KALIGANDAKI VALLEY	18
Geology of the Kaligandaki Valley	18
Natural Hazard along the Kaligandaki Valley	
POKHARA VALLEY	38
Physiography and Geology	38
Natural Hazards and Environmental Problems	
One-day Excursion in the Pokhara Valley	
JOMSOM-MUKTINATH SECTION	47
Physiography and Geology	47
Natural Hazards	47
The Trail	49
<i>Observations along the Trekking Route</i>	49
JOMSOM-KOKHETHATI SECTION	69
KOKHETHATI-TATOPANI SECTION	85
TATOPANI-BENI SECTION	107
TATOPANI-GHOREPANI-NAYAPUL SECTION	118
REFERENCES	128
APPENDIXES	133
Supplementary Notes on Terrace along the Kaligandaki valley	134
APPENDIXES	
Supplementary Notes on Terraces along the Kaligandaki valley	
Glossary	
Index	159
Geological Time Scale	
(Inside the back cover)	
EDITORS	162
ABOUT THE CONTRIBUTORS	163

資料V 実習ツアー参加者への連絡

(1) 第1回学生ヒマラヤ野外実習プログラムご参加予定の皆さま

2011年10月6日

格安航空券確保のために参加確定の皆様の個人情報を早急にお知らせ下さい。
パスポート記載のお名前（日本語とローマ字）、性別、生年月日、年齢と現住所をお知らせ下さい。お知らせ頂き次第、旅行代理店に通知し、航空券の確保を開始してもらいます。

以下になぜ早急に必要かについて若干のご説明をします。面倒な方は以下を読む必要はありません。

参加者の個人情報が早急に必要理由：

本プログラム参加経費は20万円を下回る方向で努力中で、最近の円高もあり、多分そうなるだろうとの見通しです。参加経費は航空券の価格によってかなり大きく変わります。例えばカトマンズ往復の格安航空券は今年も多分4万円台から12万円程度までとなると思われます。どれを入手できるかは航空会社が価格を発表したあと、いつ旅行社が航空会社に申込みかで決まります。つまり早い方が有利です。その申込みには乗客の個人情報がが必要です。実は、私はこれまで何度もネパールに行っていますが、いつもいろいろと努力するのですが、結局10万円+-1.5万円より安価な航空券を購入できたことがありません。

一台の航空機が300席あるとすると、航空券価格は例えば4万円台20席から20万円台20席などとなっています。もちろん私達は同じ航空機で一緒に行くし、学生の参加費はみな同一ですが、購入できる航空券の価格は同一ではありません。安価な航空券を多く購入できれば参加者の航空券の平均価格は廉価になるし、それは参加費をかなり下げることになるというわけです。

以上、ご理解下さり、よろしくご協力の程をお願いします。

吉田 勝

第1回学生ヒマラヤ野外実習プログラム

実施事務局 ゴンドワナ地質環境研究所

E-mail: gondwana@gaia.eonet.ne.jp Tel/Fax: 0736-36-7789

* * * * *

(2) 学生ヒマラヤ実習ツアー参加お申込みの皆さま

2011年11月28日

以下に本ツアーについての最新のご連絡を差し上げます。

1. 第1回学生ヒマラヤ実習ツアーは参加者が10人を越えたため、実施の見通しとなりました。
2. ツアー出発日は当初3月4日でしたが、**3月5日に変更**しました。帰国日は同じです。これは航空会社の関係フライトを変更したためです。
3. ところで、お申込み頂いた一部の方からはまだ、お申込み金の支払を頂いておりません。**申込み金の支払期限はこの11月末日**ですので、よろしくお手配下さるよう、お願いします。お申込み金のお支払がないと航空券予約ができず、ご参加が困難となりますので、くれぐれもよろしくお願いします。なお、お支払が遅れる場合は、確実に何時ご送金頂けるか、あるいはご参加の確実度などを11月末日までに必ずご連絡下さい。ご送金をご予約頂ければ当方で航空券予約代金を立替払いを致します。
4. 一部の方からは、**生年月日、あるいはパスポート表記のローマ字氏名**を頂いておりません。よろしくお願いします。
5. 当初ツアーの経費を11月20日には確定するとしておりましたが、申し訳ありませんが、現段階でまだ確定できておりません。この理由は第一に、参加者人数の確定が遅れていることから、航空運賃が確定しないこと、第二に本ツアーが完全な実費主義をとるため結局費用は実施後でないと詳細まで確定しないためです。従って現段階では、ツアー経費は総額で20万円を越えないことはほぼ間違いないとお伝えさせていただきます。
6. 12月初旬には全参加者が確定すると期待しております。その段階で確度の高い経費見通しをお伝えするとともに、今回使用するカリガンダキガイドブックをお送りさせていただきます。

2011年11月28日

吉田 勝

(3)

学生ヒマラヤ実習ツアー参加者各位

2011年12月5日

学生ヒマラヤ実習ツアー：参加者名簿、経費見通しとガイドブック送付のお知らせ

1. 11月末日、参加申し込み締切り段階で、参加者は日本側：学生12人、教員1人、ネパール側：教員1人、学生2人に、案内・指導役の吉田を加えて合計17人となりました。添付の参加者名簿をご参照下さい。

2. ツアー経費は総額20万円を下回ることがほぼ確実になりました。現在のところ、1米ドル＝80円換算で、概算17万円以下となっています。これは航空運賃が当初想定のも最も安価なものを購入できたこと（オイルサーチャージ込みで980ドル）と、ドルが安価になったためです。

ところでツアー実施要綱では、ツアー参加経費を11月20日に確定すると記述しましたが、すでにご連絡したように、完全な実費主義をとる本ツアーではツアー終了段階まで確定できないことがわかりました。上記のように、現在のところ概算で17万円以下になったとお伝えするに留めておきます。そして、参加経費として皆さまには、仮設定の20万円をお支払い頂きます。これは予想外の経費発生と、円ドル為替レート変動に備えるためです。ツアー終了後、すべての経費の確定後に清算し、残額があれば皆さまにお返しするという事にさせていただきます。清算は帰国後1ヶ月以内には完了させますので、お楽しみにお待ち下さい。

3. ご参加の皆さまには実習ツアーで活用するガイドブックを数日以内に郵送しますので、目を通しておいて下さい。また、ガイドブックをお受取になったら必ず折り返し受領のご連絡をお願いします。

添付書類 1. 参加者名簿と経費見通 1205.doc;
2. 参加者名簿 20111205.xls;

吉田 勝
2011年12月5日

(4) 第1回学生ヒマラヤ実習ツアー参加者各位
2011年12月30日

海外旅行障害保険ご加入のお願い

本ツアーでは団体海外旅行障害保険が適用されることになりました。しかし、これは実施要綱に記載の通り、ヒマラヤトレッキングでの万一の事故発生に対して十分な保険ではありません。そこで、本ツアーにご参加の皆さまには是非、個人で加入する海外旅行障害保険に各自でご加入下さい。

海外旅行障害保険は普通数万円もする高価なものですが、実施要綱に記述の通り、殆どすべての通常のクレジットカード(VISA、マスターカード、JCB 等など)には海外旅行障害保険が付帯しており、従って無料か、あるいはわずかの加入金+年会費で1年間の海外旅行障害保険の適用を受けれます。このように、この保険は通常の海外旅行障害保険に比べて圧倒的に有利ですので、皆さまには是非、海外旅行障害保険が付帯しているクレジットカードに加入されることをお勧めします。

但し、すべてのカードに共通して、カード取得後1ヶ月経過しないと保険が適用されません。さらに後述のように、クレジットカード付帯の保険は、カードの種類によって保険の適用条件に大きな違いがあり、注意が必要です。以下にクレジットカード付帯の海外旅行障害保険の適用条件についてご説明します。

クレジットカード付帯の海外旅行障害保険には、カードによっていざというときの保険適

用条件には以下の3種類があります。

- A. カードに加入していれば無条件で保険が適用される。
- B. 旅行中の公共交通機関（出発時の国内交通機関、例えば電車やタクシーも可）の一部でも当該カードで支払うと保険適用可。
- C. 主な旅行費用をカードで支払うと保険が適用される。

このA～Cのどのような条件が当該カード付帯の保険に適用されているのかは、カード会社が発行している当該カードの説明パンフ、或いは付帯海外旅行障害保健の説明パンフに記載してありますが、念のためにカード会社に電話で確認した方がよいでしょう。このような保険適用条件の違いは、必ずしもカードの加入金や年会費に関係せず、無料のカードでもAタイプのものもあり、有料のカードでもCタイプの保険である場合があります。現在クレジットカードをお持ちの方も、必ずご自分のカード付帯の保険の適用制限を確認し、Cタイプのときは、別にAまたはBタイプの保険が付帯しているカードにも加入するようにして下さい。

12月30日

吉田 勝

第1回学生ヒマラヤ実習ツアーリーダー

ゴンドワナ地質環境研究所

(5) 学生ヒマラヤ実習参加の皆様

2012年1月10日

各地と関空間の交通について

学生ヒマラヤ実習ツアー参加者の航空券はすでに購入済みで、私の手元にE-チケットが届いており、一両日以内に皆様にお届けします。そこで緊急のお知らせとお願いです。

皆様の航空券はすべて関空発です。したがってまことに心苦しいところですが、皆様にはそれぞれにご自分で関空までの交通を大至急手配して頂かねばなりません。このための経費は各自持ちです。

国際航空券の手配をお願いしたアロースター社からは以下の案内を頂きましたので、本メール添付書類として皆様にお届けします。

皆様各自でお早めにお手配されるよう、よろしく申し上げます。

アロースター社の情報によれば、各地と関空の往復交通費は最安値で買えたとして高いところで25000円ほどです。いまのところ、この金額を考慮しても、皆様の参加費が20万円を上回ることは無い見込みですので、ご安心下さい。

吉田

1月10日

.....
アロースター社からの情報:

国内線をお手配頂く上で、最良であると考えられる方法と致しましてはインターネットからJAL・ANAのホームページにアクセスして頂き、早割航空券を事前にご予約頂く方法がよろしいかと存じます。

なお、松江からの7名様と名古屋からの3名様に関しましては、空路でのお手配が不可となります為、鉄道かバスの陸路移動にてお手続き頂くことになられると思います。

下記の通りお調べ致しましたので、ご参考下さいませ。

①那覇⇄関空の移動について

現在ご使用できると思われる最安値のプラン

■往路: ¥10,800 (スーパー先得)

3/05(月) JL173便 那覇 07:35---関空 09:20 残り4席のみ

■復路: ¥16,800 (スーパー旅割)

3/17(土) ANA1753便 関空 15:30---那覇 17:45 残席あり

②東京⇄関空の移動について

現在ご利用できる最安値のプラン

■往路: ¥10,670 (スーパー旅割)

3/05(月) ANA141便 羽田 07:25---関空 08:40 空席あり

■復路: ¥13,170 (スーパー旅割)

3/17(土) ANA3826便 関空 16:10---羽田 17:20 空席あり(残席わずか)

③名古屋⇄関空の移動について(鉄道例)

近鉄名古屋駅からアーバンライナーで近鉄難波駅へ: ¥4,150

南海難波駅から特急「ラピート」で関西空港へ: ¥1,390

④松江⇄関西国際空港の移動について(鉄道例)

松江→大阪梅田 バス8便(夜行含む): ¥5,100

大阪→新今宮 JR環状線: ¥170

新今宮→関西国際空港 南海鉄道: ¥890

(6) 第1回学生ヒマラヤ地学実習ツアー参加者連絡 2月4日

<旅行全般について>

1. 実施概要

★**実施要綱**: 今回の実習ツアー全体の実施概要については、実施要綱に記載してあります。実施要綱は皆さまには既に差し上げてあると思いますが、念のため、今回別に添付お送りします。目を通しておいてください。

★**ツアーの構成**: 参加学生 12 人プラスリーダーら 7 人の総勢 19 人で、リーダー (吉田)、サブリーダー (酒井、ウラーク)、ガイド、シェルパとアシスタント役を期待されるトリブバン大学生 2 人を含む (別紙参照)。

★**ツアーの行程**: 別紙行程表のとおり、出国 (3 月 5 日) から帰国 (3 月 17 日) の 13 日間で、カトマンズ～カリガンダキ河～ルンビニ～カトマンズでの野外調査 8 日間と、カトマンズで現地のトリブバン大学の学部学生達との討論会や見学会など 3 日間 (ローカルフライト欠航の予備プログラムでは 2 日間)。

2. 出発までの準備と提出書類、出発当日の集合とカトマンズ空港到着時

出発前: 添付お送りする参加者登録・アンケート用紙に必要事項を記入してご返送下さい。また、添付お送りするネパール VISA 申請用紙に必要事項を記入、写真を貼付して出発時にお持ち下さい。

★**関空と広州空港**で: 当日 3 月 5 日の出発フライトは中国南方航空 CZ390、関空発 14:00 です。集合時間は出発時間の 3 時間の 11 時としますので遅れないようにお願いします。なお、遅れる場合は前もって到着時間をご連絡下さい。集合場所は 4 階、中国南方航空搭乗受付カウンターに一番近い待合座席コーナーとします。付函をご覧ください。到着確認の後は各自で搭乗手続きをして頂きますのでご自由によろしくお願いします。不安な人は吉田或いは酒井と同行して下さい。広州の乗り換えは一寸面倒なので、団体行動とします。

★**カトマンズ空港到着時**: 団体行動をとります。皆さんそれぞれにご準備頂いた VISA 申請書を確認して各自で VISA を取得します。空港では現地の旅行社が車で迎えにきていますので、皆で乗ってホテルに行きます。VISA 申請用紙を別に添付お送りしますので、あらかじめ記入し、写真を貼ってお持ち下さい。

3. 旅行全体の服装や持ち物など

服装: 日本～カトマンズ間は何でもかまいません。なお、カトマンズ～ポカラの気候は日本の春とほぼ同じと考えて下さい。カトマンズ～ポカラ～ルンビニ～カトマンズ間は別記の通り野外調査の服装を基本とお考え下さい。ポカラ～ルンビニ間、とりわけルンビニ周辺の日中は日本の夏と同じくらい相当に暑いでしょう。

旅行用バッグ等: 日本～カトマンズ間は防犯対策から鍵の確りしたスーツケースが推奨です。カトマンズから先はスーツケースを 3～4 人に 1 個程度にまとめ、貴重品ケースとして利用します。調査に不要なものはカトマンズのホテルに保管しておいてもらいます。調査行にはずだ袋、スキーバッグ、大型リュックサックなどが適当です。ジープ等で運ぶため、あまりかさばらないよう、お願いします。これらの大型バッグ類は常に車で運びます。従って常時携行するための小形リュックサックかが必要です。

4．現地における物品の調達

トレッキングに必要な服装、装備等は、例えばダウンジャケット、ゴアテックスコート、トレッキングシューズ、防風めがね、懐中電灯、ルリーピングバッグ、リュックサック、ずだ袋などすべてカトマンズで日本より安価に購入できます。スリーピングバッグやダウンジャケットはレンタルもありますが安いので、購入したほうがお得かもしれません。日本のディスカウントショップで 1000 円程度であれば軽いスリーピングバッグを買っていくのもよいでしょう。カトマンズ到着第 2 日目の夜は街で買い物の時間があります。

5．現地通貨、換金

通常は日本の空港で必要なドルを購入し、カトマンズの空港や街の換金屋で現地通貨のルピーと換金します。換金レートは 1 US ドルは 80 円程度、1 ネパールルピーは 1 円程度、なお、計算が合いませんが、この 1 月には 1 ドルが 85 ルピーほどでした。カトマンズの街には換金屋がたくさんあり、毎日夜遅くまで開いていて便利です。空港よりレートはわずかによく、また日本円から直接ルピーへの換金を扱う店もあります。

なお、カトマンズの街には ATM があちこちにあり、日本の銀行の国際カードや City Bank カード、或いは VISA や MC などの国際クレジットカードの利用が容易です。簡単に現地通貨を公定交換レート前後（ATM によってわずかな違いあり）で引き出せ、手数料は普通はありません。ただし、クレジットカードの場合は銀行引落としまでの期間の利息（年間十数パーセントなので、借用期間が 1 ヶ月程度なので 1 - 2%）は払わねばなりません。

6．海外旅行傷害保険に必ず加入しておいて下さい

さきにお知らせしたように、本ツアーでは団体海外旅行障害保険に加入しておりますが、これは参加者の病気治療や入院経費の観点からは殆ど役に立ちません。従ってご参加の皆さんはそれぞれに必ず海外旅行傷害保険に入ってください。万一のときの重大な病気や怪我の場合、現地の最高の病院で最高の治療を受ける、あるいはご家族に来て頂くなどに大きなお金がかかります。

通常海外旅行障害保険に別に入ると保険料は 1 万円以上します。しかしクレジットカードに自動付属しているものは、保険料はカードメンバー料金以外には不要であり（つまり無料といえます）、内容的にも十分なカバーがあり、お勧めです。この保険は、3 ヶ月以内の海外旅行であれば多分ほかのどの保険よりもお得と思います。この保険は海外での傷害、病気の治療はもとより、そのための救援や家族の現地行き、携行品紛失などいたれりつくせりのカバーがされています。通常、大部分のクレジットカードには海外旅行保険が自動付属していますが、①カードを持っているだけで効くもの、②カードで当該旅行の一部の交通費（例えば駅までのタクシー代などでも可）を支払わねばならないか、あるいは③カードで主な旅行代金を支払うなどでないと効かないものなど、いろいろあります。ぜひこの点をきちんと確かめて、上記の①か②レベルのカードを持って行かれることをお勧めします。③の場合はご相談頂ければ可能性を探ります。なお、この保険の適用条件として、カード加入後の経過期間 1 ヶ月以上などがありますのでご注意ください。

7．カトマンズの一般的様子

衛生状態: 日本をでたら生水をのまないようにきびしく自己管理をお願いします。とりわけネパールの生水は恐ろしいまでに非衛生です。切り売りの果物や生野菜サラダなど、あるいは口をつけるグラスの縁なども気をつけてください。歯磨きには水道水などを利用し、最後にミネラルウォーター

で漱いで下さい。

★**気候など**：春のカトマンズの気温は同時期の関東地方や関西地方とほぼ同じです。ドライシーズンで雨は殆どありません。街には世界各国のレストランがありますが、とりわけ日本食レストランはそれほど高価でなく、味も悪くありません。カトマンズの日本人会は300人くらいの会員数で、日本大使館が連絡の中心となっており、皆さんよく集って仲良くやっております、私達にいろいろな情報を提供してくれます。

★**治安問題**：ネパールの治安は、武闘ゲリラ（マオイストグループ）が矛を収め、新政府に参加しており、国全体として新しい国体を作る方向に向かっていきます。また、ネパールは国民の隅々まで、外国の援助の重要性が理解されており、マオイストグループもかつて武闘期間中でさえ、外国人旅行者保護を強調し、実際にここ十年以上前から外国人旅行者の治安上の事故は偶発的な1件のほかには全くありませんでした。このてんに関連して、とりわけ日本人はネパール人の殆どすべてに好意的に迎えられており、治安問題が日本人に及ぶ可能性は殆どないと思われまます。

なお、万一治安的問題が発生した場合には、本ツアーとしては、ツアー前には現地の組織や友人らとの太いパイプを通じて、ツアー実施中にはカトマンズにある共同主催者のトリブバン大学地質学教室やポカラのツアー引受け店やホテル、カトマンズの日本大使館やJICA事務所、さらには現地住民や同行のガイド、シェルパやトリブバン大学のメンバーからの情報を収集し、現地の正しい情勢をつかみ、情報を皆様に流すとともに、ツアーの実施／継続の可否や行動のしかたなどを検討し、安全の確保に努めます。

★**ネパール・カトマンズの土産品**：カトマンズやポカラではアンモナイトその他の化石を安価で購買できます。そのほかには紅茶、スパイス、衣類、袋類、じゅうたん、貴石、宝石、彫り物、布地等など、安価でよいものを無数のお店で競って売っています。地図、書籍や仏具もよいでしょう。また、100ルピーほどから自分の衣服に好きな模様を刺繍してもらえますし、好きな布地で好きな衣服を作らせることも可能です。空港の売店は街の価格の倍以上するのが普通ですから気をつけて下さい。

★**言葉**：ネパールでは一般にはネパール語と英語です。英語は昔から中学校以上で教科があり、高校以上では教科書が殆ど英語でした。最近では小学校高学年から英語授業があります。国民の殆どが英語を話すことができ、街のほとんどすべてのお店では英語で商売をしています。

< 野外調査区間の特徴と注意、服装、携行品など >

1. 野外実習ルート of 状況など

★**ルーとの状況**：カリガンダキコースは、すべて村人たちが村から村へ歩く普通の里路／山道です。牛や馬が大きな荷物をつけて隊列を組んで通っていた商業道路でもあります。最近では車の通る道になり、野外調査はやりにくくなりましたが、登山の技術的な難しさは全くないと言えるでしょう。問題は結局体力と高所順応能力（後述）ということになります。高所での長期間滞在はカグベニ（2850m）の1泊だけですので、殆ど問題はないと考えられます。多くの場合、数時間歩くと必ず茶店や旅籠があります。外国人旅行者らはこれらの店を休憩やトイレに自由に利用しています。しかし男女とも、野外の物陰で用を足すことも普通に、容易にかつ快適にできます。

★**荷物と行程**：参加者の荷物は車で先に宿に届けます。このため実習参加者は、身の回りの必要なものだけを入れた小さいサブザックなどを担ぐだけです。普通はコート（防寒衣

雨具兼用でも可)、雨具・ライトと飲料水、お金や重要書類などで5キロ程度以内となり、担ぐ荷物の重さはあまり問題となりません。長く歩く日は5日目と6日目の2日間だけですが、このときは普通のトレッキングとしての6-7時間コースで、その間に何度かの地学見学ストップ、お茶やランチで数時間つぶすので、全体として9-10時間程度の行程となりますので皆さんには頑張ってください。なお、このルートではかなり頻繁に各国のトレッカーやツアーとすれ違い、或いは追い抜かれ、言葉を交わしつつといった具合です。ジョムソンには少しにぎやかな街並みで、土産物屋や食堂などがあります。

★**宿舎**：宿は旅行者専用のロッジで、広い居心地のよい食堂と、小さい多数の客用個室で構成されるのが一般的です。個室は一般にベッドだけのかかなり小さい1人あるいは2人室で、ベッドは清潔でマットと掛け布団が付いており、洗濯された清潔な白綿の敷きシーツが付けられています。一般に寒そうなときには補助の毛布や布団を更に借りることができます。なお、よごれなどが気になる人は掛けシーツか襟カバーなどを持参するとよいでしょう。トイレは共用ですが、自由に利用できます。シャワー(温水)は共通なので順番で利用できます。しかし低地では問題ありませんが、高所ではあまり快適でなく、風邪になると困るのでお勧めできません。

★**食事**：食事は、普通はかなりバラエティーのあるレストランメニューから選べるようにしたいと思っていますが、地元で普通にあるダルバーツが最もおいしく頂けます。しかし日本食はないので気になる人は海苔の佃煮や梅干、お茶漬、インスタント味噌汁など、少し持参するのもよいでしょう。

★**サンプルの採集**：調査ルートはアンナプルナ国立自然公園地域であり、動植物や岩石の破損や持ち出しは禁じられています。このてんについてどう対処するか、共催機関のトリブバン大学やトレッキング会社と検討中です。検討結果はカトマンズでお知らせします。テチス層群中に特徴的に産出するアンモナイトなどの化石はカトマンズやポカラでよいものを安く(1個100ルピーほどから)容易に入手できます。

2. 体力と高山病対策

カリガンダキコースは、ヒマラヤの一部のコースのような極端に大きい登り下りはなく、普通に健康な人には歩き易いルートです。しかし、平素あまり運動やウォーキングをしていない人は、できれば出発前から毎日の散歩やたまのハイキングなど、野外調査に備えて足腰を慣らしておくことをお勧めします。

もう一つの問題は高山病です。突然に高所の状態に入ると6時間以上経つと、普通の人は3000~3500m以上の高所では、多少とも高山病の症状が現れます。しかし、今回の最高所はムクチナートで標高3800mですが、そこには長時間滞在せず、高所の宿泊はカグベニで、ここは標高2850mです。この高さは富士山の5合目と同じで、人によっては多少気分がおかしいこともあるかも知れませんが、深刻な高山病は殆ど起こりませんし、普通全く問題はないと言えます。

なお、高山病の症状が現れにくくし、また症状を軽減するダイヤモンドモックスという薬は、欧米のトレッカーらによく用いられており、好評のようです。この薬品は、日本でも高山病対策として処方してくれる医者も、ときに居ます。また、カトマンズでは薬局で簡単に入手でき、また、今回のツアーとしても備品薬として携行します。この薬はサルファ剤に弱い人は服用できず、また、血圧降下剤と併用できません。また、利尿効果が強いので、夜中になんども小用に起きねばならないようなことも人によって起こります。念のため皆さんはサルファ剤への耐性や血圧降下剤を服用しているか、確認しておいて下さい。なお、

高山病等での重大事態には、ヘリコプターによる緊急下山も可能で、ツアーではそのための準備もしております。

3. 野外実習中の服装と携行品

野外実習中の服装は、日中は日本の春の東京や大阪の近郊の低山（千米級）の山歩き程度の服装と考えてよいでしょう。この季節は、ヒマラヤでは一般にコース全体を通じて天気はよく、日本と違って雨はほとんど無いでしょう。但し、カグベニ以高では朝夕は0℃前後になることもあるでしょう。そういうところでは薄いキルティングコート/ダウンジャケットが有効です。以下にこの季節の現地での適当な服装と携行品を記載します。

★通常のトレッキング時の服装：はきなれた登山靴かトレッキングシューズ（キャラバンシューズ/バスケットシューズ/ウオーキングシューズや運動靴などでも可）、半そで下着（シャツ）またはTシャツ（綿素材は汗をかいた後が快適でなく、あまりお勧めできませんが可能です。綿下着をご利用の場合は必ず替えの下着かTシャツを携行する必要があります）、綿か合織の作業長ズボンと作業長袖シャツ、鏝広帽子、サングラス（とくにジョムソン-カグベニ間は強い砂埃風対策に必要）。カグベニ以高はズボン下と長袖下着及びセーター+ジャンパー（あるいは薄いダウンジャケット、ゴアテックスコート、ポンチョなどで通常はザックに入れて歩く）と、耳覆いあるいは耳を覆える毛糸帽子など。

★携行品：雨具（傘、レインコート、ポンチョあるいはゴアテックスコート上下などのいずれか）*、軽い寝袋、下着や靴下スベア各1-2、ズボンスベア1、懐中電灯あるいはヘッドランプ*、魔法瓶**、飲料水*、持病薬/常備薬*、当日トレック中の自分の菓子類*、お金と重要書類*、ノート*、筆記用具、巡検ガイドブックと地図*、ハンマー、サンプルバッグ、クリノメーター或いは磁石*、化粧具（歯ブラシほか）、裁縫道具、つっかけ/草履、ナイフ、トイレットペーパー*、カメラ*、GPS***、双眼鏡*、ノートPC***、携帯電話かスマホ***、自分専用の愛用日本食（梅干やお菓子）。

（キルティングコート/ダウンジャケットのかわりに厚手セーター+ジャンパー/ウインドヤッケ/ゴアテックスコートの組み合わせとすることも可能です）

*：いつも持って歩く。 **：カグベニ以高に着用するか自分で持って歩く。 ***：時と場合によって携行する、 無印：車で宿舎まで運搬、下線：なくてもなんとかなる。

★トレッキング会社が準備できる：寝袋、飲料水、非常用薬品、トイレットペーパー、トレッキング中の菓子類。

添付書類など

1. ネパール VISA 申請書式
2. 参加者登録アンケート用紙
3. 関空集合場所の位置図
4. 学生のヒマラヤ野外実習プログラム実施要綱
5. 実習ツアーの日程表
6. 参加者名簿

- 以上 -

添付資料 2

第 1 回学生ヒマラヤ実習参加者登録
(実習期間：2012 年 3 月 5 日～3 月 17 日)

氏名とアルファベット表記：

所属と学年、身分など：

現居住地の住所と電話番号：

E-mail アドレス：

非常時の連絡先の名称、所在地と電話番号など

1. 家族：

2. 所属など：

海外旅行傷害保険の加入保険名称と連絡先：

契約者氏名と連絡先（本人あるいは家族と違う場合のみ記載）：

現在の健康の問題点：

現在治療中の病気など：

現在服用中の薬など：

サルファ剤服用で問題の有無：

血圧降下剤を服用中か否か：

— 以上 —

(7)

第1回学生ヒマラヤ実習ツアー連絡0229

2012 年 2 月 29 日 吉田発

1. 集合と出国について

集合日時：3 月 5 日 11 時

集合場所：関西国際空港 4 階中国南方航空カウンター (E カウンター) 西側ロビー

なお、集合時間に遅れる場合には事前にご連絡下さい。当日の吉田への連絡は以下の携帯電話：080-6112-7789 或いは E-mail : gondwana@ezweb.ne.jp お願いします。なお、遅れて到着したときに集合場所に皆が居ないときは、先着メンバーはすでにゲート内に行ったものと理解してご自分でチェックインし、出国手続き、搭乗を行って下さい。

2. 持ち物

持ち物についてはすでにお知らせした通りです。とりわけパスポート、E-チケット(E-チケットレシート)、VISA 申請フォーム、パスポートサイズ写真 2 枚、お金などをお忘れなく。

3. VISA 申請フォームへの記入について

VISA 申請フォームへの記入は皆さんご自分で英語で記入して下さい。わからないところは空けておいて、空港や機内で分かる人から聞いて記入して下さい。写真は貼り付けないでクリップで留めておいてください。貼り付けた人はそのままお持ち下さい。

4. カトマンズとポカラのホテル：以下のホテルを利用します

KATHMANDU:

HOTEL BRIHASPATI, G.P.O. Box : 26385, Naxal, Kathmandu, Nepal
Tel. : +977-1-443 8229, 443 8230 Fax : +977-1-4439832
E-mail : info@hotelbrihaspati.com

POKHARA:

Hotel Thirdpole, Lakeside, Pokhara Nepal.
Tel: 00977-61-463647
Pokhara@hotelthirdpole.com; sales@hotelthirdpole.com

5. 飲み水、漱ぎ水、生野菜、果物、ジュースなどの注意

外国旅行ではまず旅行中の健康第一で、そのためにはなによりも飲み水への注意が必要です。

とりわけネパールの水は天下一の不健康さと言いたいくらい危険です。

(1) 飲み水、うがい水、歯磨き最後の漱ぎ水など、喉を通る水は密封を自分で開けた信頼の置けるペットボトルミネラルウォーターに限ること。(2) 切った果物や生野菜は包丁や俵板の水が問題なので口にしない。(3) フレッシュジュースや氷を浮かべたジュースは水道水を利用している可能性が高く、絶対に口にしない。(4) ジュースが出されたときは密封の缶ジュースか箱詰めジュースのものであることを確認してから飲む。(5) 道路で紅茶を買って飲む(トレッキングでよくあること)ときは飲み口をコップの中の紅茶少量で一寸流し洗いしてから飲む。等などの注意を必ず守って下さい。一寸の油断が時には一生に響く重大な事態を招きます。

水への注意を忘れなければ、あとは大した心配はありません。

6. ネパール国内航空運賃の値上げ

今年1月から2月にかけてネパールでのガソリン値上げに伴って国内航空運賃が一斉に値上げになりました。ポカラージョムソンフライトも81ドルが94ドルと、10%以上上がりました。我々のツアーを世話するDiplomat Travel Co.によると、これに伴い、交通機関はもとより、宿泊費から食費に至るまで一斉に値上げが進行中とのことで、当初予定の経費の上昇は必至とのことでした。上昇を最小限に抑える努力を要請しましたが、皆さんにお知らせしました17万円を下回るという希望は霧消したと言わざるを得ません。これに加えて最近ドルが上昇して来ました。これも我々の予算を圧縮します。しかしいずれにしても、20万円を越えることはないと思っております。

7. カトマンズでの爆発事件

一昨日の2月27日昼にカトマンズのオフィス街にあるネパール石油公舎前で爆弾が破裂し、死傷者数名が出ました。日ネ協会のホームページによればテライの民族独立武装組織(UNLF)が声明を出し、政府の油類高騰や汚職横行に対する無策などへの抗議であるとのことでしたが、後に自分らの犯行ではないとの声明を出しました。

ネパール旅行を控えた皆さんには不安材料です。しかし、攻撃対象が限定されているようですし、私達が訪れる短い期間と狭い地域に合わせて再びこのような事件が起こる可能性は殆ど無いと言えるでしょう。推察するに、UNLFは死者が出たので驚いて犯行声明を引込めたのではないのでしょうか。ネパールでは一般市民に死者がでるのを極端に嫌います。中近東の自爆テロとは爆弾の性能や攻撃対象が全く異質です。特にネパールではすべての人達が外国旅行者には危害が及ばないようにとの細心の注意を払っており、これはこれま

でにネパールで発生したいろいろな反政府事件についても守られていました。
以上のようなことから、私は日本にいてもいろいろな危険があるわけですからあまり心配しても仕方が無いと腹をくくっています。なお、目下うへの爆発事件に関して現地に問い合わせています。なにかめぼしい情報が入ったときにはまたお知らせします。

8. ご質問を受けています。

皆さん、本ツアーに関連して疑問のことがあればどんなことでもご自由に、お早めに私にお聞き下さい。わかる範囲で直ぐにお答えします。

—以上—

(8) 第1回学生ヒマラヤ実習ツアー実習中の主な連絡先
(吉田発 2012年3月4日)

学生のヒマラヤ野外実習プロジェクト世話人：

札幌市北区北8西5 北大総合博物館 在田一則

Tel: 011-706-2724 E-mail: arita@museum.hokudai.ac.jp

本プログラムのネパール側共同主催者

Department of Geology, Tri-Chandra Campus, Tribhuvan University, Ghanta Ghar, Kathmandu.

Department Head: Dr. T.N.Bhattarai

Tel: 00977-1-4469346, E-mail: tnbhattarai@wlink.com.np,

団体旅行航空券と団体保険取扱い：

担当：青樹 真(総合旅行業務取扱管理者)

アロースターインターナショナル・ランカウイツアー

東京都知事登録旅行業第3-5152号、日本旅行業協会(JATA)正会員

〒104-0061 東京都中央区銀座8-14-12 銀座第1ビル3F

TEL:03-3524-7777 FAX:03-3524-7778

mailto:alorsetar@mtj.biglobe.ne.jp

ネパールの担当旅行社：

Mr. Jhabi Adhikari

Director/ CEO, Diplomat Treks & Expeditions Pvt. Ltd.

Mansarowar Path, Lakeside, Pokhara-6, Nepal

Tel: 061-464360/465507 Fax +977-61- 464360

E-mail: travel.baba@gmail.com

—以上—

(9) 帰国後連絡—レポート提出依頼

2012年3月24日

第1回学生ヒマラヤ実習ツアー参加者連絡 0324

みなさん、時差ぼけ、ヒマラヤフィーバー、英会話恐怖やお尻の痛みなどなど、そろそろ治った頃と思います。実習ツアー終了後の第1回のご連絡を差し上げます。

1. 経理のまとめがほぼできました。皆様への返金はお一人当たり **40,792** 円となります。まずは嬉しいニュースからというわけです。
2. 上記とは無関係(!?)ですが、皆さん、報告書を送って下さい。報告書は **2** 頁程度以上 **20** 頁程度以内とし、以下の内容を入れて下さい。写真や地図、スケッチなど歓迎です。
 - (1) 参加の動機や理由
 - (2) ツアー全体の概要をごく簡単に
 - (3) ツアー全体を通じての記憶に残った事件、印象、感想、意見などたとえば：
特に感銘を受けた・印象の深かった地学的事象、特に感銘を受けた・印象の深かった地学以外のことどもなどなど。
 - (4) 将来の本実習ツアーに対する忠告・意見、あるいは今回のツアーに対する苦情など
 - (5) 体調を崩したひとは、その経過、理由、治療経過などを必ず別項を設けて記載して下さい。今後のツアーの計画に対して貴重な参考資料となります。ご協力をお願いします。
 - (6) 最後に結論として今回の実習ツアー参加が自分にとってどうであったか、また今回のツアー全体はどのようなものであったか ーどう良かったか/悪かったかー などなどなんでも書いて下さい。
 - (7) 可能であれば、報告書の最後にトリバン大学での英語発表のメモ(英文)を整理・タイプして添付して下さい。報告書を読むネパール側の学生・教員が喜びます。
3. カリガンダキガイドブック 5冊1パックづつを運搬して下さった方は着払いで吉田宛てにお送り下さい。なお、まわりにそのガイドブックがほしいという人がいたら、販売して下さってかまいません。その場合は通常の日本販売価格一冊 **3000** 円をお願いします。購入者の所属と氏名を記録してお知らせ下さい。領収書を発行します。

今日 **3月24日** 土曜日の夕は、私のホテルにトリバン大学地質学教室の教員 **12** 人が集まります。第1回学生ヒマラヤ実習ツアーの成功を報告し、この意義深い共同事業の成功に祝杯をあげることになっています。

なお私は **3** 日後にはまたポカラ、カリガンダキに行きます。なにか忘れ物をした人は回収しますからご遠慮なくお申し付け下さい (J o k e ! ?)。

3月24日

カトマンズ S h a k t i ホテルにて

吉田 勝

(10) 第1回学生のヒマラヤ野外実習ツアー参加者各位

アンケート等のお願い (2012年5月24日)

遅くなりましたが、目下第1回学生ヒマラヤ野外実習ツアーの報告書の編集を進めています。この報告書は基本的に電子版で、ゴンドワナ地質環境研究所ホームページで公表します。印刷・製本は数十部のみとし、関係者、参加者に配布する予定です。

この報告書について、皆さんにお願いと質問がありますので、ご返事をお願いします。本報告書は第2回(来年3月実施予定)の学生ヒマラヤ野外実習ツアーの募集開始前には発行したいと思い、この6月10日発行を目標にしています。ご返事をできるだけ早くお願いします。

1. 皆さんからお送り頂いたレポートを、明らかな誤字などを訂正したほかはそのままで報告書に収録することをお許し下さい。なお、具合の悪い方や条件をつけたい方はお申し出下さい。
2. 別紙アンケートにお答え下さい。アンケート結果は個人氏名を伏せて、そのままの形や、集計結果として報告書に収録しますので、ご了承下さい。なお、具合の悪い方や条件をつけたい方はお申し出下さい。
3. 報告書には写真をたくさん載せたいと思っています。ところが、まことにお恥ずかしく残念なことです。今回のために購入して携行した私のカメラは使い勝手がわるく、殆どの画像が役に立ちませんでした。そこで皆さん、よい写真がありましたらお送り下さい。報告書に掲載させて頂くときは、撮影者、日時、場所を明記し、オリジナリティを尊重します。
4. 報告書の暫定目次を添付します。これについてご意見がありましたらお知らせ下さい。またそのほか何でもご意見がありましたらばお寄せ下さい。

以上、お早目のご返事をくれぐれもよろしくお願い致します。

2012年5月24日

吉田勝

ゴンドワナ地質環境研究所

〒648-0091 和歌山県橋本市柱本147-2

www.geocities.jp/gondwanainst/

gondwana@oregano.ocn.ne.jp

Tel & Fax: 0736-36-7789

第1回学生のヒマラヤ野外実習ツアー 参加者アンケート
(2012年5月24日)

1. 3月上旬の日程はどうでしたか？

A. よかった B. 調整に苦労した C. _____頃の方がよい D. その他_____

2. 全体で13日間という期間はどうか？

A. 丁度よい B. もっと短い方がよい C. もっと長くてもよい D. その他_____

3. ムクチナート〜ルンビニというコースは適当でしたか？

A. 適当 B. 不適当

Bを選んだときはその理由や適当と思われるコースをお書き下さい。

4. 実習でよかった見学地とその地学事象を3点以内挙げて下さい。

A) _____

B) _____

C) _____

5. 実習でよくなかった見学地とその地学事象を3点以内挙げて下さい。

A) _____

B) _____

C) _____

6. 実習指導の内容について、良かったてん、悪かったてんそれぞれを簡条書きで書いて下さい。

7. ツアー全体について、良かったてん、悪かったてんそれぞれを簡条書きで書いて下さい。

8. その他なんでもご自由にご意見等を書いて下さい。紙面が不足のときは別紙を足して下さい。

回答の月日 2012年 _____月 _____日

回答者の学年 _____

回答者のお名前と所属をよろしければお書き下さい

お名前 _____ 所属 _____

編集後記

参加学生全員に帰国後 1 ヶ月を目処に報告書を提出してもらうとのアナウンスは、ツアー最終日の 3 月 16 日、トリブバン大学での報告会の際だった。そして、皆が帰国した後の 3 月 24 日には、報告書の詳しい内容についての注文を含めて、再度提出のお願いを出した。そしてレポートは 4 月 11 日に藤田君の第 1 号が届き、その後 1 ヶ月ほどのうちに全員から届いた。まずは好成績と言えよう。各報告には小さいミスが沢山あったが、それも記録の一部と考えて殆どそのまま訂正をしないことにした。編集にとりかかったところ、参加者アンケートも必要と思いつき、5 月 25 日にお願いを出し、6 月 20 日までに 10 人から提出を受けた。本書の後半に収録することになったいろいろな資料の整理に意外と時間がかかり、ようやく 6 月末日に完了の見通しとなった。橋本市の印刷所に相談してまずはほぼ実費で印刷・製本して頂くことになった。予定を変えて全国 58 の地学関係教室全部に本書を送り届けることにしたために、発行部数が増えて大幅な予算超過となってしまったが、将来を思ってよしとした。